

第一次地域福祉活動計画

計画期間:平成26年4月1日から平成31年3月31日まで（5 年計画）

平成28年度実行計画進行管理



取手市社会福祉協議会

Toride city council of social welfa

「とりで^友YOU・^愛Iプラン」の進行管理

1 目的

この方針は、「とりで^友YOU・^愛Iプラン」（以下「プラン」という。）を効果的かつ効率的に推進するため、プランに基づく様々な取り組みについて検証し、継続的に改善することによりプランの円滑な進行管理に資することを目的とする。

2 進行管理の対象

（1）行動計画の評価

- ・実施項目において、成果の評価及び今後の方向性について個別評価を行う。
- ・評価結果は、実施項目シート毎に記入する。

3 進行管理の実施体制

（1）事業所及び担当者の役割

- ・実施項目の企画・実施にあたる担当者が、実施項目毎に成果を評価し、今後の計画の進行状況を確認・見直しをする。
- ・担当者が行った進行管理について、事業所内で共有化し評価・検討する。また、必要に応じて実施項目の担当者の評価を基に振り返りを行い、事業所としての評価としてまとめるとともに、課題を明らかにし、共通理解を図りその解決方法を検討する。
- ・行動計画の進行進捗状況について、年度内に取手市社会福祉協議会運営委員会に報告し、助言を受けることとする。
- ・助言等を受け行動計画の修正を図り、年度末にその状況等を取手市社会福祉協議会運営委員会に報告する。

4 評価の基準

（1）成果状況の評価基準

評価区分	成果内容
5	順調に計画通り進行した
4	概ね順調だが不十分な点が少しあった
3	実施されている部分もあるが不十分な点も多い
2	既に実施予定の時期であるが、まだ取り組んでいない
1	実施方法も含め事業実施に再検討が必要であり、取り組んでいない

※年度当初に作成する、年間の事務事業執行計画に対しての成果状況とする。

5 進行管理の実施時期

（1）成果状況評価

- ・1月中旬に（4月～3月見込み実施分）の成果状況の評価を実施する。

（2）今後の計画の進行状況を確認・見直し

- ・年度末（1月中旬）に1回実施する。
- ・担当者及び事業所が行った評価結果について、1月の事業所連絡会議において確認・検証する。

6 進行管理の実施結果

- ・進行管理の実施結果については、取手市社会福祉協議会運営委員会及び理事会・評議員会に報告する。
- ・進行管理の実施結果については、必ず担当者が次年度担当者に引き継ぐ。

第一次地域福祉活動計画（とりでYOU・Iプラン） 平成28年度実行計画進行管理

1. 基本方針

平成28年度のYOU・Iプラン（平成26年度～平成30年度）は、「市民ひとりひとりが、その人らしく地域で安心してくらせる福祉のまちづくり」を基本理念を踏まえ、3年目を迎えることから、前年度の事業の評価検証並びに事業精査の遂行を踏まえ、住民主体の地域福祉の一層の向上を目指し、行政や福祉関連の団体・事業所との密接な連携を図り、効率的・効果的な行動計画の進行管理に努めてまいりました。

2. 主たる行動計画

●高齢者・障がい者等への権利擁護に係る支援

本格的な少子・高齢化の進展、家族扶養機能の変化、障がい者等ができる限り地域で自立して生活できるようにすべきであるという理念の定着など、近年の社会福祉を取り巻く状況は大きく変化している。

このような環境の下で、社会福祉サービスを主体的に選択し、自己決定するためには、誰もが必要な時にサービスを適切に利用できるような仕組みを構築することが必要であります。

そのために取手市として支援体制の一環として、本会が日常生活自立支援事業から成年後見制度における法人後見受任までの総合的な権利擁護機能を有する「成年後見サポートセンター」を開設しました。

●地域コミュニティの推進

「障害者福祉センターふじしろ」において自分が暮らす地域において、地域住民が交流し、世代間・障がいの有無などの垣根を越えて「つながり」・「理解」・「助けあい」のまちづくりが実感できるようなきっかけ作りの場として共生型地域交流拠点「カフェ・ウェルカム」をオープンしました。

●生活困窮世帯等の子供への支援

子供の将来が、その生まれ育った環境によって左右されることがないようにすること。また、貧困が世代を超えて連鎖することのないよう、必要な環境整備を図る子供の貧困対策はきわめて重要であることから、社協も市から委託を受け、子供の居場所づくりのひとつとして「学習支援事業」に取り組み、生活困窮者等の子供たちが安心して地域で暮らせるよう努めて参りました。

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成28年度
実施項目名	生活課題を抱えている人への支援	担当係		藤代支所
		担当者	職名	係長
事業開始年度	平成26年度		氏名	五十嵐玉枝
根拠法令等				
プランにおける 該当項目	行動目標	1	もっと学ぼう、知らせようー情報の共有促進	
	行動計画	①	社会資源に関する情報の収集と提供に努めます	
現状と課題	住民の生活課題は実に多様です。人によって知りたい情報も、相談する相手(機関)も違います。 どのような制度や施設、公的機関、医療機関、人的資源があるのか、必要な人にもわかりにくい状況といえます。 必要な時に必要な情報を提供できるようにするにはどうしたらいいのか、どこに聞くのがベストなのか、把握しておく必要があります。			
目的 (何のために)	相談できずに困っている人、どこに何をどう聞いたらいいかわからない人を一人でも減らしていくため			
対象 (誰・何を対象に)	市民全般			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させたいのかなど)	引き続き、市民の生活課題に答えられるよう、社会資源に関する情報を収集し、情報誌やフェイスブックなどで紹介していく。 (成年後見サポートセンターや心配ごと相談などの紹介) 世代別、地区別の抱えている生活課題を把握するために、フリーマーケット、ネットワークフェア、福祉まつり等で調査する。 他市町村社協や行政等のホームページや情報誌も参考にして内容の充実を図り、読みやすいものにしていく。			
平成28年度 の実施状況	ホームページ・情報誌・フェイスブックでの広報活動 ホームページ ・「取手市成年後見サポートセンター」開設、食の支援「きずなBOX」紹介 ・各事業所求人告知 ・各事業所の行事告知、研修参加募集（随時更新） 情報誌での広報活動 ・げんきサロン4か所、きずなBOX設置、「取手市成年後見サポートセンター」開設等 紹介 ・地域で安心して暮らすために、高齢者・障害者・子育て世代に向けての事業や制度等、紹介 ・共生型地域交流拠点の～ま、カフェウェルカム、ぼらびカードの紹介、社協会費法人会費報告 フェイスブック ・各事業所でイベント、研修、事業の告知や報告等、随時掲載			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明
		4月～ 3月	2	一人でも多くの方に読んでいただけたよう情報発信に努めているが、ホームページのバナー広告が見つからないことと、情報誌クイズコーナーへの応募が横ばいで、依然として読者が増えていないと感じる。
	課題			
	ホームページや広報誌とも、新規の読者が増えていない。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	新しい取り組み（特集記事など）を取り入れ、面白味があり、市民の方が興味のある役立つ情報を発信していく。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	各事業所との連携を更に強化し、29年度力を入れていきたい事業などを取り上げる。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		4月～ 3月	各事業所などの行事や取り組みの紹介とともに、外部にも目を向け、社会で問題になっていることなどにも市民の方々の意見も聞きながら、今知りたいことが何なのかを把握し、情報を発信していく。	
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
ボランティア情報誌「キューピット」についても、いいものなので全戸配布について検討をされた い。 経費の関係で全戸配布が難しい場合は、ホームページに掲載されていることや地区公民館などに置 いてあること、毎月発行していることなどをPRして、多くの人に読んでいただけるよう、努力してほ しい。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

				シート作成年度	平成28年度
実施項目名	福祉教育プログラム作成			担当係	地域支援係
				担当者	職名
事業開始年度	平成26年度			氏名	小林一郎
根拠法令等					
プランにおける 該当項目	行動目標	1	もっと学ぼう知らせようー情報の共有促進		
	行動計画	②	福祉教育プログラムを作ります		
現状と課題	小中学校等福祉体験を実施にあたり徐々に学校ボランティアの依頼が増えているが学校によってやる内容が決まっている。 福祉体験の回数が増えていきボランティアの派遣が重なるとボランティアが派遣困難な状況になる。特に車イス、アイマスク白杖、シニア体験についてのボランティアが足りなくなる。				
目的 (何のために)	社協での福祉体験は一部の教員が把握し実施している状況にあるが、福祉教育プログラムを作ることで福祉体験等依頼しやすくする。福祉体験などをとおしてボランティア活動への関心を高める。				
対象 (誰・何を対象に)	小中学校高校児童生徒				
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	校長会での福祉体験の内容等詳細を一覧にした冊子「やさしい心の種をまく」を配布。福祉体験ボランティアについての説明。その他市内小学校6校中学校2校に各50,000円を助成により、児童生徒のボランティアへの関心を育む。昨年度の各指定校の活動報告書を配布し、各学校での取り組みを参考にしてもらう。7月中に中学、高校へ夏休み中に活動できるボランティア活動やイベント情報を提供し生徒に周知してもらい参加を募る。同時に学生の福祉体験ボランティア養成講座への参加も募る。7月1号「広報とりで」で福祉体験ボランティア養成講座の広報を行う。				
平成28年度 の実施状況	5月校長会において社協で実施している福祉体験の内容等詳細を一覧にした冊子「やさしい心の種をまく」を配布。社協で行っている学校ボランティアの派遣等、取り組みについてを説明。さらに若年層ボランティアの育成の為、ボランティア活動推進校の指定についてや助成金の説明も合わせて行った。福祉体験から得た知識や福祉に関心を持った生徒たちを活動につなげるためボランティア活動のための費用として昨年同様市内小学校6校中学校2校高校2校に各50,000円を助成した。また、7月とりで障害者協働支援ネットワークとともに市内の中学校、高校へ訪問し、イベントやボランティア講座の説明を行った。				

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明
		4月～ 3月	4	福祉体験冊子「やさしい心の種をまく」により各学校での福祉体験が増加。福祉体験について各学校の担任の先生に福祉体験の内容等認知度が上がったと予想される。従来の手話体験、点字体験や車いす体験のほか障害者の講和等も増えている。
	課題			
	車イス、アイマスク白杖、シニア体験のボランティアは徐々に増えつつあるが、福祉体験の回数が増えていきボランティアの派遣が重なると派遣困難な状況になる。今後もボランティア育成の充実が不可欠になる。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	車いす、アイマスク白杖、シニア体験のボランティア派遣が多いため、なるべく単体で行うのではなく3種類を1度に行うようにしている。ボランティアについては講座開催の広報の充実、他のボランティア団体への呼びかけなどさらなる増員を図る。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	福祉体験ボランティアの車イス、アイマスク白杖、シニア体験のボランティアについてはシルバーリハビリ体操指導士の会から多く参加しているため今後も呼びかけをするとともに個人ボランティアに参加を促す。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		29年4 月～ 30年3 月	福祉体験の担任の先生ではなく学校レベルでの定着に向け、校長会での福祉体験の内容等詳細を一覧にした冊子「やさしい心の種をまく」を継続して配布し、福祉体験ボランティアについての広報を継続して行う。	
	年 月 ～ 年 月			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
ボランティア情報誌キューピットが2月号で八重洲ニュータウンの記事があり自治会で配らせてもらった。キューピットがボランティア団体に各1部しか配られないので部数が余るようならばもう少し団体に配ってほしい。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

			シート作成年度	平成28年度		
実施項目名	趣味サークルにおける社会参加			担当係		地域支援係
				担当者	職名	係長
事業開始年度	平成26年度				氏名	小林一郎
根拠法令等						
プランにおける 該当項目	行動目標	2	支えられ、支え合おう一担い手の育成			
	行動計画	①	趣味サークルを有効に活用します			
現状と課題	共通の趣味活動であるフォークソングにより仲間づくりから始め、現在演奏と歌のパートに分かれ月1回の練習を行っている。ある程度の演奏ができていますので、演奏をスムーズに進められるようにして訪問活動のボランティアができるようにする。					
目的 (何のために)	ボランティアの担い手不足を解消する新たな手法として、共通の趣味から仲間づくりをし、その延長線上でのボランティア活動を行えるようにする。					
対象 (誰・何を対象に)	取手市民一般					
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた いのかなど)	フォークソング講座に参加した方と随時募集をして新たにメンバーになった方とで月1回の勉強会を開催する。、さらに会員を増やすよう年に数回講師を呼び、公開講座も開催する。平成28年度中に高齢者施設やいこいの場等での演奏活動ができるよう社協も協力する。					
平成28年度 の実施状況	月1回の勉強会を開き、サークルのメンバーにギター演奏をしてもらいギターに合わせて歌を歌ってもらった。参加者は随時募集しているため、参加者の増加もあった。サークルメンバーからサークルの名称を決めたいとのことで「ハッピーフレンド」という名称になった。2月のいこいの場で演奏をすることが決定。					

進行 管理	成果 状況			成果状況に対する説明
		4月～ 3月	3	2月にいこいの場での演奏を実施した。フォークソングの世代への反響があり今年度もサークルのメンバーの増員があった。周りで歌って盛り上げるための歌のメンバーがロコミで徐々に増えている。
	課題			
	演奏する曲目を増やし、施設等で継続して演奏を実施できるようになること。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	約30曲はすでに練習を実施しているので、今後メンバーが変わらずに練習を重ね、新しい曲を増やしていく。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	現在演奏活動を行っている他の団体への呼びかけ、演奏についての参加協力を要請する。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		29年4 月～ 30年3 月	講師を招き「フォークソングのつどい」を開催。公開講座として新規メンバー加入を目指す。また、現在のサークルメンバーも一緒に参加してもらい、演奏の展開等勉強してもらう。	
年 月 ～ 年 月				
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
平成29年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成28年度	
実施項目名	ボランティアの新規登録増加		担当係		地域支援係
			担当者	職名	主幹
事業開始年度			氏名	廣瀬嘉子	
根拠法令等					
プランにおける該当項目	行動目標	2	支えられ、支え合おう		
	行動計画	①	趣味サークルを有効に活用します。		
現状と課題		実際にボランティア活動している人の高齢化もあり活動者は減少している。ボランティアをしたいがきっかけがつかめない人、または社会問題などに関心があり活動したいと思っている人を発掘していくことが必要。			
目的 (何のために)		地域の中で身体等で困っている方も生活しやすい街を目指して、担い手となるボランティアを養成します。			
対象 (誰・何を対象に)		市内在勤在住のボランティア活動に興味のある方			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)		各種講座終了後、ボランティア活動につなぐ。講座開催中にボランティア活動をしてもらえる様に個人的に誘導する。講座終了後20%のボランティア登録を目指す。また、キューピット等掲載方法に工夫をこらしお知らせする。 【講座内容】 ①手話奉仕員養成講座 ②点字講習会 ③朗読ボランティア養成講座 ④絵本お話しボランティア講座 ⑤身体障害者（児）支援講座 ⑥精神保健ボランティア養成講座 ⑦福祉体験ボランティア養成講座 ⑧男性講座 ⑨男性料理教室			
平成28年度 の実施状況		現在終了したボランティア講座は、絵本講座・精神保健・福祉体験・男性講座・男性料理教室が終了しました。参加者の年齢層は30代～70代と幅広い方にご参加いただきました。残り4つの講座については、現在も継続開講中、参加者募集中です。			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明			
		4月～ 3月	2	講座によっても様々ですが、全体的に募集定員の半数の参加者でした。終了後、ボランティアの活動につながるケースは講座により様々ですが、全体的には1割程度です。			
	課題						
	市民の方が、興味のあることなど自分に合ったボランティア活動をし、また見守り地域の人との交流の場づくりなど社会参加支援を幅広く活動ができればと思います。						
	課題解決のための改善内容・取り組み方針						
	講座案内を市の広報やボランティア情報誌「キューピット」に掲載するほか、常連の受講者やボランティアに口コミで案内を行う。						
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)						
	市の広報などの協力を得て、掲載する際に受講者の感想や受講風景等の掲載を含め趣向を凝らし情報を発信していく。						
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明				
		29年5月 ～ 30年8月	一層の広報・周知活動を行い、多様な対象者の受講を促進する。				
29年9月 ～ 30年12月		各種講座の参加者には講座内容に関するボランティアや地域でのボランティアなど、各個人に合った活動の支援をする。					
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見							
30代から40代のボランティアさんが講座を受講していようであるため、どのような講座に若い人が興味を持っているかなどを研究して講座を実施してください。							

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

			シート作成年度	平成28年度
実施項目名	移動運転者講習会		担当係	地域支援係
			職名	主幹
事業開始年度	平成25年度	担当者	氏名	廣瀬嘉子
根拠法令等	【国土交通省認定研修（認定番号：国自旅第197号）】			
プランにおける 該当項目	行動目標	2	支えられ、支え合おう一担い手の育成	
	行動計画	②	専門的なボランティア活動を促進していきます。	
現状と課題	毎年移動運転者講習会は開催しているが市内3団体で行っている移動サービスの現状は、高齢化によりニーズが増える一方で、まだまだ運転ボランティアが不足しています。地域住民の方にほんの少しの時間でも、地域福祉活動に参加することで大きな助け合いの輪に広がります。一人でも多くの参加登録を希望します。			
目的 (何のために)	市内3団体の運転ボランティアの増員を目的に講習会を開催する。			
対象 (誰・何を対象に)	68歳未満の茨城県南地域在住・在勤者（普通運転免許保持者）			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	国土交通省の認定する講習会を2日間にわたり開催。 1日目は、移動サービス概論や運転に必要な知識と心構え、リスクへの対応、セダン利用者理解等の講義を行う。 2日目は、基礎的な接客技術及び介助技術及び実技演習、福祉自動車の特性（演習を含む）そして、運転ドライバーによる路上運転実技、ヘルパーによるセダン利用者介助実技等を行う。			
平成28年度 の実施状況	福祉有償運送運転手講習会を10月22日・23日の2日間で実施。 20名の方に受講いただきました。（男性16名・女性4名） 1日目には、移動サービスの運転に必要な知識、また利用者理解と接客・介助の講義を行い、 2日目には、介助技術などの講義後に実際に受講生の方に車椅子の取り扱いや運転実技を学び、チェッカーによる評価を受け、受講者全員に修了書を授与されました。			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明			
		4月～ 3月	3	受講生20名中、取手地区にお住まいの方は11名。そのうち3名の方に社会福祉協議会へ登録済み。1月までに2名が活動を開始しました。			
	課題						
	超高齢化社会といわれる状態が、今後益々深刻化していくことは間違いありません。高齢化社会は、非常に深刻な問題とされています。取手市内でも移動困難者は増加することと思われます。毎年運転ボランティアの登録はありますが、不足することが予想されます。その為、ボランティアは継続的に新規登録が必要である。						
	課題解決のための改善内容・取り組み方針						
	高齢福祉課や障害福祉課の職員、または取手市内の移送団体であるNPO法人活きる・NPO法人ふじしろ福祉の会の3団体で今後の移送サービスの方向性について、定期的に研究会を開催する。						
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)						
	取手市内の社会福祉協議会以外のNPO法人2団体と連携をし、今後の対策を十分に検討していく。						
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明				
		29年5月 ～ 30年8月	運転手講習会開催について広報活動の方法を移送サービス全3団体、そして高齢福祉課と調整をする。				
29年9月 ～ 30年12月		運転手講習会（全2日）の開催。					
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見							
行政や社協で移送団体に車を貸し出すことはできないのでしょうか。移送サービスのボランティアは足りているのでしょうか。移送サービスが健全に運営できるよう福祉有償運送運転手講習会の回数を増やすなどして運転ボランティアを増やす努力が必要。							

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

				シート作成年度	平成28年度
実施項目名	災害ボランティア育成			担当係	地域支援係
				担当者	職名
事業開始年度	平成26年度			氏名	小林一郎
根拠法令等					
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実		
	行動計画	①	緊急支援できるボランティアを組織化します		
現状と課題	いつ起こるかわからない災害時の対策について地域との連携、組織化がされてなく緊急時の対応に難しい状況にある。				
目的 (何のために)	災害時ボランティアセンターを立ち上げた時に協力をしてもらうボランティアを平時より育成し有事の際に迅速に対応できる組織づくりをする。				
対象 (誰・何を対象に)	取手市民一般				
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	9月に災害の知識と災害支援について学習する防災ボランティア養成研修会を開催。研修終了後ボランティア登録をしていただき災害に関する講演会等イベントに参加してもらう。すでに災害ボランティアに登録している方へも研修会の参加案内もしてフォローアップの一環として参加してもらう。9月～10月各地区で行われている防災訓練には参加して盛られるよう情報提供をして参加につなげる。				
平成28年度 の実施状況	10月県社協に登録した防災ボランティアと市民を対象に防災に関する研修会を開催。災害時の知識習得や災害対応を目的として静岡県地震防災センター片井賢一氏による災害図上訓練(DIG)を開催。自宅や自宅周辺の情報、危険個所をチェックし、災害時に安全に避難するための準備についてを考えた。また、地域の防災対策の把握の為、中央タウン、桜が丘、光風台、新取手の防災訓練に参加。地域ごとの災害対策について知るとともにキュービットやフェイスブックに活動状況を掲載し、広く一般の方へ地域の防災の重要性、防災訓練参加につながるよう広報した。				

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明
		4月～ 3月	3	防災ボランティア研修会では災害図上訓練(D I G)を体験し、参加者に、災害時の混乱、対応に関する知識、備えについて考えるきっかけになった。今回自主防災会からの参加もあり、地域に帰ってからの防災対策など参考にもなったと思われる。今後参加者が自分たちの地域で研修会を行うことができれば、より身近な問題として多くの方が防災に関する意識が高まる。
	課題			
	近年日本の各地で災害があり、身近な問題としての意識はあると思うが、市民が実際に災害が起きた時に対応できるよう平時の準備を怠らないよう意識をつなげる。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	地域での防災訓練の協力や防災に関する研修会を引き続き行い、各地域の自主防災会にも働きかけ、より多くの方の参加協力が得られるようにする。また、結果や地域で行われている防災訓練についても広報し、それぞれの地域での取り組みについても知ってもらう。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	地域の自主防災会への社協開催の研修会参加の要請や防災訓練での車イス講習会実施など協力関係の構築。防災について社協がより身近になるよう努める。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		29年4月～ 30年3月	防災ボランティア養成講座の開催。県社協防災ボランティアのフォローアップ研修も開催し災害に関する啓蒙啓発活動を引き続き行う。また、防災訓練にも積極的に参加し、地域との連携を図る。	
年 月 ～ 年 月				
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
平成29年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

				シート作成年度	平成28年度
実施項目名	相談支援事業			担当係	相談支援事業所
				担当者	職名
事業開始年度	平成25年12月から			氏名	佐藤晶彦
根拠法令等	障害者総合支援法				
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実		
	行動計画	②	一人で抱え込まないための相談支援活動の充実		
現状と課題	■利用者に対して、ニーズの聞き取り、計画の作成等に多くの時間を要する。関係機関との連携、各事業所の担当者の協力を得ながらスムーズに取り組めるような配慮が必要。 ■相談支援専門員の社会資源情報の不足。 ■適切なプランニングにおける相談支援専門員の専門性、資質向上。				
目的 (何のために)	■障害福祉サービスの利用を希望される方に対し、個々のニーズに合った総合的な援助や、解決すべき課題を踏まえ、最適なサービスのプランニング、モニタリングをおこなう。障害者やその家族の生活支援に関する相談に応じ、関係機関との連携を密にとり、住み慣れた地域において生活できる体制をつくる。				
対象 (誰・何を対象に)	■障害者総合支援法の計画相談支援の対象者 ○取手市在住の方で、障害福祉サービスを申請した障害者又は障害児であって、市町村がサービス等利用計画の提出を求めた方。				
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた いのかなど)	■事業の効率化 ○相談支援専門員の専門性、資質の向上（他事業所との意見交換会、事例検討）。 ○自立支援協議会等、専門研修への参加（定期的に参加 年4回程度）。 ■利用者への支援 ○障害福祉課、特別支援学校との連携、他事業所との情報交換を定期的におこなう（随時）。 ○定期的なモニタリングを実施することで利用者の状態確認をおこなう（随時）。 ○必要に応じてサービス担当者会議を開催し情報の共有を図る（随時）。				
平成28年度 の実施状況	■事業の効率化 ○相談援助業務担当者研修の参加。 ○自立支援協議会への参加により、他事業所との連携、情報の共有を図ることができた。また、相談支援部会（龍ヶ崎保健所管内相談支援部会意見交換会）において、他事業所等の計画、モニタリングのプレゼンテーションにて、お互いの計画内容の確認、他事業所との連携、情報の共有、意見交換をおこなうことができた。 ■利用者への支援 ○障害福祉課、他事業所等との連携、情報交換ができた。 ○定期的なモニタリングはできたが、モニタリング時期がずれることもあった。 ○必要に応じてサービス担当者会議を実施することができた。 ○11月より児童計画をおこなう。				

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明		
		4月～ 3月	3	○相談件数においては、現在160件。件数は多いが、アフターフォローについて、十分でない部分があった。 ○困難ケースも増えてきており、数回の自宅訪問、電話連絡等をおこなってきたが、本人、保護者との意見の相違があり中々先に進まないケースが出てきている。 ○他事業所との連携、サービス担当者会議の開催、事例検討会にて様々な事業所と意見交換をおこなうことができた。 ○発達センター利用児童について、11月より計画相談を導入。障害福祉課、発達センターの協力を得て、12月末現在で8件の計画相談をおこなう。		
	課題					
	困難ケースも増えてきており、他事業所との連携、対応できる知識、人脈、社会資源の開発が今後も必要になる。ただ、保護者と本人との意見が違うなどのことから、中々先に進まないことがあり、難しさを感じるケースがでてきている。児童計画についても同様、家庭環境が複雑なケースがあり、関係機関との連携が必要と思われる。					
	課題解決のための改善内容・取り組み方針					
	時間を有効に使っていく必要がある。電話対応での状態の確認、支援施設での様子等定期的におこなっていく。また、相談支援事業所だけで進めていくのは困難なため、多くの関係機関との連携、相談を随時おこなっていく。また、新たにできた事業所への見学を随時おこなっていく。					
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)					
	様々な事例に対応していけるよう、支援員の知識向上、他事業所等との連携をおこなっていく。					
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明			
		29年4月 ～ 29年9月	相談支援員の専門性を高めていく必要がある。他事業所がおこなう情報交換会、自立支援協議会、相談支援部会への参加をしていく。情報収集として、常に最新の情報を確保していく。			
29年10月 ～ 30年3月		相談支援員の専門性を高めていく必要がある。他事業所がおこなう情報交換会、自立支援協議会、相談支援部会への参加をしていく。情報収集として、常に最新の情報を確保していく。定期的な研修を含め社会資源の開発を視野に入れていく。				
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見						
平成29年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。						

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

				シート作成年度	平成28年度
実施項目名	生活困窮者自立相談支援事業（取手市委託）			担当係	生活支援係
				職名	主事
事業開始年度	平成27年度			担当者	氏名 村田隆紀
根拠法令等	生活困窮者自立支援法（平成25年法律第105号）				
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう——福祉サービスの充実		
	行動計画	②	一人で抱え込まないための相談支援活動の充実		
現状と課題	生活困窮者自立相談支援事業は、生活困窮者が困窮した生活から自立することを目的としている。生活は困窮しているが、どこへ相談したらよいかわからない、問題解決のための情報を持っていないなどの状況にある者が、その生活上の課題を解決するときのひとつの手段として、生活困窮者自立相談支援事業を利用することができる。しかし、相談内容がさまざまなため、相談者の問題解決が当事業機関の相談だけでは難しい場合があり、地域の他の機関との連携による問題解決をおこなっていく必要がある。また、相談者のなかには所得が不十分なために困窮している者がいる。ハローワークでは生活保護等自立就労支援として市への巡回相談も実施しており、当相談事業を窓口とした生活保護等自立就労支援の活用による経済的困窮の解決も可能である。子どもの将来が、生まれ育った環境の影響を受けることが多く、子どもの貧困対策は重要である。生活困窮者自立支援法においても学習支援事業を任意事業として位置づけている。社会福祉協議会では市より委託を受けて、平成28年度より学習支援事業を実施し、困窮世帯の子どもの学習の機会と居場所作りに取り組む。				
目的 (何のために)	相談者情報を他機関と共有することについて相談者から承諾を得て、他機関と連携した支援を可能としていく。 就職や収入を増やすことにより困窮改善にいたると思われる相談者にはハローワークの活用をすすめる、ハローワークと連携を図っていく。 貧困世帯の子どもの学力向上を図る。				
対象 (誰・何を対象に)	相談者				
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)	・相談者に個人情報の取扱規程を提示し、関係機関との情報共有等に同意を得よう努める。同意があった場合には相談受付票の同意欄に署名を求める。困窮者本人が相談に来訪した場合の同意した相談者の割合を8割に引き上げていく。（平成27年度の本人来訪の相談数は93件。そのうち個人情報取扱規定署名件数は21件） ・ハローワークの生活保護等自立就労支援事業を利用する相談者を年間8人以上とする。（昨年利用件数は4件） ・学習支援事業を継続的に実施していく体制を整える。				
平成28年度 の実施状況	来訪での相談については相談者に個人情報の取扱規程を提示し説明することとし、情報共有のもとに他機関との連携を実施できるよう努めた。 無職者や求職者にハローワークの生活保護等自立就労支援事業について情報提供したが、利用した相談者は12月までに3件と利用人数は伸びなかった。 学習支援の開催会場や学習支援アドバイザーを確保し、学習支援事業を週1回実施した。レクリエーションの機会も年に2回設けた。学習支援に参加していない対象世帯へも参加の呼びかけをおこなっている。				

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		4月～ 3月	3	73件の来訪での相談にたいして、62件（12月末現在）において個人情報取扱規定について説明し、個人情報を関係機関と共有することの同意を得ることに努めたため、関係機関へ相談者をつないだり、問い合わせや情報提供を求める際に、有用であった。 生活保護等自立就労支援事業を利用した相談者は12月までに3件と利用者が少ない状況である。そのうち2件で就職に至っている。求職を希望していても自身のペースで求職活動をおこないたい者がいることも現状としてはある。 学習支援では利用者がやりたい教科を自己学習し、アドバイザーに個別指導を求める方法で実施した。1回平均4人が利用している。年2回実施したレクリエーションでは保護者等の参加もあり、利用者やアドバイザーとの交流する機会となった。 障害者の就労支援の取り組みについては、ハローワークでおこなわれている障害者就労支援の状況把握をおこなった。今後は他の機関との連携や支援対応の向上が求められている。	
		課題			
	相談支援では相談者の相談内容が多岐にわたるため、相談者の課題に対応できる他機関との連携や知識の取得が必要となる。障害者の就労のニーズを精査しながら、障害者の就労支援についても積極的に取り組んでいく必要がある。 学習支援事業が28年度より始り、子ども達の学習の向上と居場所の場となるよう環境づくりが求められる。学習支援アドバイザーを確保し、アドバイザーとともによりよい支援を子どもに提供する必要がある。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	相談支援ではO J T研修やS D S等を通じて職員の知識習得や資質の向上を図る。また、他の支援機関等との連携をはかり利用者の相談への対応力の向上を図る。障害者の就労支援に対応できるよう関係機関との連携を図っていく。 学習支援事業において、運営安定のため学習支援アドバイザーとの会議等の機会を設ける。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
		期間	今後の方向性の説明		
		29年4月～ 30年3月	相談支援では研修やSDSを通じて職員の質を高めるとともに他機関との連携を図る。また、障害者の就労支援に対応できるよう関係機関と連携を図る。 学習支援では保護者・子ども・アドバイザーと連携を図り、有効な学習支援につなげるため、キーパーソンとなっているアドバイザーとの連携会議を年2回以上実施する。		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
平成29年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成28年度
実施項目名	取手市成年後見サポートセンター	担当係		生活支援係
		担当者	職名	主事
事業開始年度	平成28年度		氏名	安田理恵
根拠法令等	民法			
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう——福祉サービスの充実	
	行動計画	②	一人で抱え込まないための相談支援活動の充実	
現状と課題	私たちが日常生活を営む中では、商品購入や社会福祉サービス利用、財産処分など、さまざまな場面において契約行為が行われ、これらの契約によって日常生活が成立しているような状況です。そのため、判断能力に要支援課題が生じ契約行為を行うことができなくなった場合、日常生活に困難やトラブルが生じ、重大な不利益を被ることになってしまいます。			
目的 (何のために)	判断能力に要支援課題が生じた人の自立生活の実現に向けた対応として、日常生活自立支援事業や成年後見制度を有機的につなげたシステムを構築するとともに、地域住民の参画・協働を受けながら総合的な支援体制を構築するものです。			
対象 (誰・何を対象に)	市民全般			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させたいのかなど)	●成年後見制度利用相談事業 ・さまざまな相談ニーズに対応できるように職員のスキルアップをはかっていく。 ●成年後見制度啓発事業 ・パンフレットの作成をする。(6月までに) ・パンフレットを地域包括支援センターに設置し周知する。(7月までに) ・広報誌や社会福祉協議会ホームページ上へ掲載する。 ●日常生活自立支援事業 ・福祉サービス利用援助 ・日常的金銭管理サービス ・書類等預かりサービス ●成年後見制度法人後見受任事業 ・法定後見開始の審判を受けた被後見人等に対する身上監護及び財産管理に関すること。			
平成28年度 の実施状況	●成年後見制度利用相談事業 ・相談援助件数 54 件 (平成28年12月末現在) - うち新規相談 35 件 - 継続相談・援助 19 件 ・成年後見制度及び日常生活自立支援事業に関する県社会福祉協議会主催の研修・連絡会議に参加(4月・10月)。 ●成年後見制度啓発事業 ・センター開設に伴い、市広報誌、社協情報誌、ホームページにて事業内容を掲載した。 ・パンフレットを作成した(500部)。 ●日常生活自立支援事業 ・契約者 21名 (平成28年12月末現在) ●成年後見制度法人受任事業 ・受任件数 3名			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		4月～ 3月	3	センター開設に伴い、広報誌等への掲載により地域住民や関係機関への周知となり、相談件数や法人受任件数へと繋がっている。 パンフレットの作成は行なったが、地域包括支援センター等への積極的な設置については不十分であった。	
	課題				
	本格的な少子・高齢化が進むとともに、家族機能の変化により、今後、ますます日常生活自立支援事業や成年後見制度の利用を希望する人々は増加すると思われる。そのような状況の中で取手市の支援体制の一環として、日常生活自立支援事業から成年後見制度における法人後見受任までの総合的な権利擁護機能を有し、継続的に支援を展開することが必要である。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	①相談員及び生活支援員の質の向上 ⇒多様化する相談に対し、相談者のニーズに応えられるようスキルアップを図る。 ②関係機関との連携 ⇒行政、地域包括支援センター、顧問弁護士等、関係機関と情報共有や意見交換を行い、連携・協力しながら、適切に制度利用を支援する。 ③成年後見制度及びセンター事業の普及啓発 ⇒関係機関へのパンフレットの配布や権利擁護に関する制度やしくみの講演会を開催する。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	行政、地域包括支援センター、顧問弁護士等の関係機関が相互に連携を図り、権利擁護の支援体制を構築することが今後も必要である。				
		期間	今後の方向性の説明		
		29年4月 ～ 30年3月	継続して成年後見制度及びセンター事業の普及啓発を行い、相談件数や受任件数を増加させ、センターの実績を確立させる。また、多様化する相談に対応できるよう職員の専門性を高める。		
年 月 ～ 年 月					
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
平成29年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成28年度				
実施項目名	発達相談事業			担当係		取手市立こども発達センター		
				担当者	職名		児童発達支援管理責任者	
事業開始年度			平成26年度		氏名		宮崎江美子	
根拠法令等		児童福祉法						
プランにおける該当項目	行動目標		3		いろいろな支援を進めよう——福祉サービスの充実			
	行動計画		②		ニーズを早く解決する仕組みをつくります			
現状と課題		■現状：当センターを利用するための相談、就学について、医療・病院紹介について、幼稚園・保育所（園）・学校生活について、家庭・家族・兄弟・本人について、など、あらゆる相談に対して支援を行なっている。相談員としては当センター所属の相談支援専門員である社会福祉士や小児科医、保育士、または市障害福祉課発達支援専門員が対応している。 ■課題：様々な理由で保護者との意思疎通が上手く取れず、または保護者からの相談がない為にお子様の療育が十分に出来ない場合がある。それを関係機関と連携しどう克服するかが課題である。						
目的 （何のために）		■当センターに関係するお子様が保護者の適切な管理の下、充実した生活を送り、将来に向けて十分な療育が受けらることを目的とする。						
対象 （誰・何を対象に）		■市内在住で当センターに関係するお子様とその保護者を対象としている。						
事業・業務の 具体的内容等 （何をいつまで に・どのレベル まで達成させたい のかなど）		■事業の内容については、上記現状のとおり、職員が窓口となり相談支援の体制をとっている。相談の内容に応じ、市教育委員会、障害福祉課、子育て支援課、保健センター等福祉関係部所、病院、学校等の関係各所と連携を取り対応していく。 ■平成27年度11月から発達障害に詳しい小児科医を招いて隔月（奇数月）において医療を開始した。平成28年度も同じ形態で医療相談を行い、相談者の要望に応じその数値目標を年間15件以上とする。 ■上記課題に挙げた保護者の理由でお子様が十分な療育が受けられないことのないよう、関係機関と連携の上、センター側から積極的に働きかけていく。 ■発達相談事業については、保護者のメンタルケアを含めこども発達センター運営の重要な部分を占めている。事業所内の相談を積極的に行い、保育所、学校等との連携を深めていく。						
平成28年度 の実施状況		■保健センターが実施している1歳6ヶ月健診や3歳5ヶ月健診の際に、発達に心配のあるお子さんに対して保健師より当センターの紹介を受けた方や、幼稚園、保育所（園）に通っているお子さんが担任の先生方より紹介をされ、保護者が発達センターに問合せをする。その後、市障害福祉課の職員と当センターの相談員による受理面談を実施。今年度の受理面談実施件数は、4月～12月まで96件。1月～3月は調整中。 ■当センターによる発達相談件数は4月～12月まで179件。 ■医療相談件数は隔月（奇数月）実施し、平成29年3月まで予約を受け21件。 ■幼稚園や保育所（園）とのお子さんの指導の相談を受け、家庭連携サービス実施件数、4月～12月まで37件。更に支援者会議を儲けた件数4件述べ8回実施。 ■就学相談は、当センター利用の年長児82名中61件の相談に応じ、教育委員会へ引き継ぎを実施。 ■小学生（卒園生および一般を含む）の相談件数は4月～12月まで29件の相談に応じ、教育委員会、青少年センターへ引き継ぎを行った。 ※今年度、受理面談の中でダウン症のお子さんを持つ保護者より、育て方や障害の受容について相談を受け、発達センターにて「ダウン症親の会たんぽぽ」を9月より発足し、月1回実施中。						

進行 管理	成果 状況			成果状況に対する説明
		4月～ 3月	4	■随時、事業所内の相談に対応しながら保護者のメンタルケアを含め、多様なニーズに応じられるよう積極的に取り組み、切れ目のない療育指導が行えるよう関係機関との連携を心がけた。
	課題			
	■当センター利用に繋がる受理面談希望者が多いため、後期には待機児童が発生してしまう。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	■受理面談後に、市障害福祉課職員、児童発達支援管理責任者、相談員、専門職員等で一人ひとりに必要な指導内容を検討する。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	■関係機関との連携を行い、情報の共有をしながらスムーズに相談から療育に繋がるように進めていく。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		28年4月～ 28年9月	■毎月1回、市障害福祉課職員との連絡会を実施し、状況の把握を行い、受理面談を進めていく。 ■お子さんの日常生活での心配ごと、療育に関すること等の保護者の相談に相談員が応じる。 ■第1回教育委員会支援者会議実施（8月25日）	
	28年10月～ 29年3月	■第2回教育委員会支援者会議実施(11月17日) ■第3回教育委員会支援者会議実施予定（1月12日）		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
平成29年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

				シート作成年度	平成28年度
実施項目名	見守りの輪作り			担当係	藤代支所
				職名	係長
事業開始年度	平成26年度			担当者	氏名 五十嵐玉枝
根拠法令等					
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実		
	行動計画	②	みんなで守る意識を高めます		
現状と課題	旧藤代地区も住民の関係が希薄になっており、何もサービスや事業が入っていない認知症の方の徘徊などが多くなっています。				
目的 (何のために)	認知症の徘徊の方の早い発見や、虐待などの発見、孤独死の防止				
対象 (誰・何を対象に)	市民全般（主に藤代地区）				
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)	引き続き市民の方に認知症ポスター養成講座などを紹介し、対象者に積極的な声かけや見回りをしてもらうようにする。 藤代地区地域包括支援センターなごみの郷さんに、ふれあいサロンやボランティア団体の会合などに来ていただき、地域とのつながりを強化、情報の共有をしていく。 （5月のフリーマーケット開催時に地域包括支援センターなごみの郷のご協力を得て、介護相談コーナーを設ける。） 引き続き、徘徊している高齢者を見かけた方が、そこに行けば行政や警察などに連絡してくれるというような、協力してくださるお店（コンビニやガソリンスタンド、商店など）や、個人のお宅を探す。				
平成28年度 の実施状況	地域包括支援センターなごみの郷と情報交換を密にしている。 ・5月、10月開催のフリーマーケット開催時に地域包括支援センターなごみの郷さんに参加していただき、来場者の相談にのっていただいた。 ・在宅福祉サービス協力会員の定例会時に認知症のお話をしていただき、利用会員への対応の仕方などを教えていただいた。 ・徘徊している方の情報を共有（ケースによっては民生委員さんにもお伝えした）。以前相談した方のお宅もこまめに回ってくださっている。 すでにコンビニや商店などは、警察等と連絡体制ができているようである。				

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明		
		4月～ 3月	2	なごみの郷の職員の方に情報をつないでいる状態で、藤代支所としては協力者を増やせていない。		
	課題					
	見守り、声かけ、保護などをしてくださるボランティアや協力者を増やせていない。					
	課題解決のための改善内容・取り組み方針					
	地域包括支援センター、高齢福祉課、ヘルパー事業所、民生委員児童委員、ボランティア等との連携、情報共有。 認知症関連講座など情報発信、参加依頼。					
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)					
	認知症の方を受け入れてくださるふれあいサロンを増やす。 子どもや動物が好きな方も多いので、短い時間でも子どもや動物と一緒に過ごせる行事や団体を探す。 既存のボランティア団体も情報をくださるので、認知症の方と一緒にできる団体の活動や行事があったら受け入れてもらえるよう働きかける。					
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明			
		4月～ 3月	地区公民館やふれあいサロンなどに訪問し、情報を得る。 一時保護していただける店舗などを探す。 徘徊だけでなく、家に引きこもりがちな高齢者に、ふれあいサロンなどに出向いてもらえるようにする。			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見						
平成29年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。						

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

				シート作成年度	平成28年度
実施項目名	地域清掃活動による、福祉センターふじしろ広報活動			担当係	障害者福祉センターふじしろ
				職名	主事
事業開始年度	平成27年度			担当者	氏名 平嶋浩司
根拠法令等					
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実		
	行動計画	②-(2)	みんなで守る意識を高めます		
現状と課題	取手市全体だけでなく、藤代地区においても障害者福祉センターふじしろの認知度が低い。福祉センターふじしろの場所、存在の認識がないため、利用者への関心も低く、地域住民の福祉活動への参加を推進できていない。				
目的 (何のために)	地域福祉活動を推進していく上で、地域の中にどのような福祉施設があり、様々な人々が生活していることを福祉センターふじしろの広報活動を通して発信し、地域住民の皆さんに認知してもらう。				
対象 (誰・何を対象に)	福祉センターふじしろ利用者と職員が地域住民の皆さんを対象に活動				
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させたいのかなど)	毎月第二、第三火曜の午後二時から行っているクラブ活動内において運動クラブに所属している利用者と、市内を散歩しながら路上のクリーンナップ活動に取り組む。 その際には、福祉センターふじしろを周知してもらうために利用者・職員が揃いのウェア（紫色のビブス）を着用し、活動。 毎年7月第二土曜の午前中に開催される「鬼怒川・小貝川クリーン大作戦」に福祉センターふじしろとして参加。				
平成28年度 の実施状況	第二、第三火曜のクラブ活動内（運動クラブ）において、安全面に考慮しながら小貝川土手付近道路を中心に路上クリーンナップ活動を実施。 平成28年度の「鬼怒川・小貝川クリーン大作戦」は当日雨天のため不参加。				

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明			
		4月～ 3月	4	揃いのウェア（紫色のビブス）を着用しての定期的な清掃活動により、以前にもまして地域住民から声のかけられる機会が増えた。			
	課題						
	旧藤代保健センター移転後、全館管理となったことにより障害者福祉センターふじしろとしての認知度は向上し、清掃活動により利用者への関心度も向上させることができているが、地域住民の福祉活動参加推進には至っていない。						
	課題解決のための改善内容・取り組み方針						
	引き続き定期的な清掃活動の実施、イベントへ参加し継続的に取り組んでいく。地域団体、ボランティア団体等と連携した新たな清掃活動、その他活動の実施。						
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)						
	共生型地域交流拠点の～ま（カフェウェルカム）の運営におけるボランティアの参加、地域コミュニティ推進と連携し、地域福祉活動の推進に取り組む。						
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明				
		29年4月 ～ 29年9月	29年度「鬼怒川・小貝川クリーン大作戦」への参加継続的に月2回地域清掃活動の実施。				
29年10月 ～ 30年3月		ボランティア団体等と連携した活動の企画、実施。 清掃活動だけに限らず、利用者と地域住民が交流の持てるような活動を考える。					
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見							
平成29年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。							

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

			シート作成年度	平成28年度
実施項目名	愛の定期便活動を通しての見守りネットワークづくり		担当係	取手ヘルパーステーション
			職名	管理者
事業開始年度	平成26年度	担当者	氏名	田之上由香
根拠法令等				
プランにおける該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう一福祉サービスの充実	
	行動計画	②	見守り助け合いネットワークづくり努めます。	
現状と課題	少子高齢化や核家族化が進行し、独居の方や高齢者世帯の方が多くなっています。近隣関係が希薄になってきており、孤独死の増加が懸念されます。取手市社会福祉協議会では取手市からの委託事業である「愛の定期便」を行っています。希望される閉じこもりがちな方を対象に乳製品を配布して安否の確認をしています。申請された方への事業の為、介護や人との関わりを拒否される方の安否確認を今後どのようにしていくかが課題になっています。			
目的 (何のために)	愛の定期便活動を通して、利用者以外の方でも異変等を早期に発見する事ができ、迅速に対応できるようなネットワークづくりをしていく事を目的とする。			
対象 (誰・何を対象に)	取手市在住の高齢者世帯の方や一人暮らしの方を対象とする。			
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまでに・どのレベルまで達成させたのかなど)	・乳製品（ヤクルト）を配布しながら、安否確認を行う。 月曜、水曜⇒ヤクルトさん（井野センター、戸頭センター） 金曜⇒取手市社会福祉協議会 ・愛の定期便訪問時に本人の不安や心配な事を傾聴しながら、近所の方などの異変や気になる事なども情報収集できるような関係を作っていく。また、訪問時に高齢者に係る事件等の情報提供を行い、注意を呼びかけるようにする。 ・訪問先のご近所の方にも積極的に挨拶や声かけを行い、訪問活動をしている際に徘徊等の異変を感じたら早期に対応できるようにしていく。 ・ヤクルトさんや社協での見守りだけでは不十分の為、民生委員さんやボランティアの方とも連携をとりながら、愛の定期便活動を通して地域住民同士で見守りができるネットワークを構築できるようにしていく。			
平成28年度 の実施状況	本年度より、取手と藤代の計画を一本化して事業を行った。昨年度同様、愛の定期便活動中には積極的に挨拶や声かけを行い、異変に気がついた時は関係機関に連絡をとり対応をお願いした。定期的に地域での活動を行うことで、顔見知りの方も増えてきており、活動時の見守りは充実できている。			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明		
		4月～ 3月	3	訪問先での話しを傾聴することで情報収集ができ、必要があれば対応することができた。愛の定期便活動中に、近隣の方に声をかけられることもあり、相談にのることもあった。		
	課題					
	活動中に異変に気がついた時は、関係機関につなぎ対応をお願いすることができる。しかし、地域で孤立している方は外出することは少なく、他者との交流する機会がほとんどない状態である。今後、そのような方の見守りをどのようにしていくか、現状の見守り活動を更に充実させるにはどのようにしたらよいか等を検討していく必要がある。					
	課題解決のための改善内容・取り組み方針					
	平成29年4月より取手と藤代の事業所が統合し、統合後の事務所は藤代となる。今後、1つの事業所で広範囲の見守り活動を行うこととなるが、「気付き」の視点を持てるように職員の専門性も高めていく必要がある。					
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)					
	今後も、愛の定期便実施機関である取手市役所高齢福祉課を中心に、ヤクルトさんや地域包括支援センターと連携をとりながら活動を行っていく。また、地域資源を活用しながら地域住民同士での見守りができるように、愛の定期便活動を地域住民の方へ更に周知してもらえようとする。					
		期間	今後の方向性の説明			
		29年4月 ～ 30年3月	職員の専門性を高め、地域に出向いた際の異変時の対応や相談をしやすい環境づくりを構築していく。			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見						
平成29年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。						

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

				シート作成年度	平成28年度
実施項目名	赤い羽根共同募金運動 街頭募金			担当係	藤代支所
				担当者	職名
事業開始年度	平成26年度				氏名
根拠法令等					
プランにおける該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実		
	行動計画	③	魅力あるイベントを開催します		
現状と課題	10月に赤い羽根共同募金運動を展開していますが、使途がわからない、などのご意見を毎年頂戴しています。 PRも兼ねて、赤い羽根共同募金運動の一環として街頭募金は毎年、市内各駅やスーパーマーケット、ボランティアさん、学校等の協力をいただき実施していますが、街頭募金のボランティア団体協力数を増やしていきます。 秋の赤い羽根フリーマーケット（10月）は5月のフリーマーケットのように、特設ブースなどを設置し、一層の充実を図ります。				
目的 （何のために）	赤い羽根共同募金のPRと、理解を得るため、また市民の交流の場作りのため実施				
対象 （誰・何を対象に）	市民全般				
事業・業務の 具体的内容等 （何をいつまで に・どのレベル まで達成させたいのかなど）	街頭募金として、引き続き赤い羽根フリーマーケットの実施 ・10月第3土曜日予定（5月にも開催しているので定着させるため、藤代庁舎駐車場にて開催） ・出店料 500円（80店舗募集） ・赤い羽根共同募金グッズの配布 ・特設ブースの設置（地域包括支援センター藤代なごみの郷の介護相談、障害者福祉センターふじしろの模擬店、社協 募金グッズ、わたあめ他） その他の街頭募金活動予定 JR取手駅、藤代駅、常総線 西取手駅、寺原駅、新取手駅（協力：取手地域女性団体連絡会） ヤオコー藤代店（協力：藤代紫水高校JRC部） マスダ戸頭店（協力：ボーイスカウト取手3） とりで産業まつり（協力：昭和産業株式会社） 今年度も協力者には、助成金を配分しているボランティア団体等にも声をかけ、協力をいただく。また、つつじ園まつりなどの大勢の人が集まる場所での街頭募金も実施。				
平成28年度 の実施状況	10月22日（土）に実施 ・出店数 35店舗（出店料500円 17,500円の収入） ・来場者数 約600人 ・赤い羽根グッズのCM（寄付金をいただいた方に進呈） ・募金活動（募金額3,672円） ※熊本地震・岩手台風災害義援金も実施（7,739円） その他の街頭募金・イベント募金実施状況（※は熊本地震義援金等災害募金も実施） 10月 1日 ヤオコー藤代店・青柳店で街頭募金（協力：はとの会、サロンかたらい） 31,854円 10月 3日 JR取手駅等6駅で街頭募金（協力：取手地域女性団体連絡会）68,352円 ※10月16日 つつじ園まつり（7,241円） ※10月 いこいの場（6日間・7,306円） 10月23日 マスダ戸頭店（協力：ボーイスカウト取手第3団・13,072円） ※10月29日 福祉まつり（10,780円） 11月5、6日 とりで産業祭（協力：昭和産業株式会社・22,428円） ※11月19日 ネットワークフェア12,162円 他				

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明			
		10月～ 12月	3	フリーマーケットは80店募集のところ35店(区画)と出店者が少なかった。(グリスボまっりのフリーマーケットと日程が重なり、そちらに参加された方が大勢いた。) 地域包括支援センター「なごみの郷」(介護相談等)、J A茨城みなみ「夢とりで」(出張野菜販売)、おもちゃ病院(無料修理)、社協(募金者にわたがしプレゼント)に加え、オープン直後の障害者福祉センターふじしろ「カフェウエルカム」の出店のおかげもあり、来場者微増、滞在時間も伸びた。 今年も昨年の常総市水害に続き、熊本地震や岩手・北海道台風災害など大きな災害があったためか、赤い羽根募金や災害義援金に積極的に募金してくれる方が増えた。			
	課題						
	天候の不安。 出店者の確保。50店舗(区画)以上は欲しい。 赤い羽根共同募金への理解を深める工夫。						
	課題解決のための改善内容・取り組み方針						
	P Rの強化。 出店者への特典なども考える。						
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)						
	各事業者の利用者さんや家族の方にも出店や来場をお願いする。						
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明				
		4月～ 8月	早めの準備 (P R) 他地区のフリーマーケットの調査				
		9月～ 10月	他事業所でのイベントなどでちらしを配布 市内のお店などにポスター掲示依頼 出店者、来場者の増をめざす。				
	取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見						
平成29年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。							

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

			シート作成年度	平成28年度
実施項目名	地域イベントへの参加		担当係	障害者福祉センターふじしろ
			職名	主事
事業開始年度	平成27年度	担当者	氏名	平嶋浩司
根拠法令等				
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実	
	行動計画	③-(2)	魅力あるイベントを開催します。	
現状と課題	これまでも様々な地域イベントへ参加をしているが、毎年決められたイベントへの参加だけを行っていたため、参加側も受け入れ側もマンネリ化している。 新たなイベントへの参加や既存のイベントへ違う形での参加を計画することで、地域社会との新たなつながりを持つことが課題。			
目的 (何のために)	地域イベントへ参加することにより地域社会との繋がりを強め、利用者の地域社会への参加、地域住民の福祉活動参加へのきっかけを作るため。			
対象 (誰・何を対象に)	福祉センターふじしろ利用者と職員が地域社会を対象に活動			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	地域イベントへの販売参加。 ・4月 さくら荘まつり、ふじしろ図書館まつり ・5月 赤い羽根ふれあいフリーマーケット、小貝川フラワーカナルバザー ・7月 買ってNetバザール ・9月 あけぼのまつり、藤代商工会まつり ・10月 赤い羽根ふれあいフリーマーケット ・11月 (福祉まつり、ネットワークフェア、光風台自治会まつり ・2月 取手ひなまつり 販売参加時、ブースにてポスターや看板を掲示、販促チラシ、施設紹介パンフレットなどを販売品と共に配布するなどし、広報活動もあわせておこなう。 イベント販売参加を通じ、イベント開催自体のノウハウを身に付け、将来的に福祉センターふじしろ主催のイベント開催を検討していく。			
平成28年度 の実施状況	予定販売イベントへの販売参加 ・4月 さくら荘まつり、ふじしろ図書館まつり ・7月 イオン守谷買ってNetバザール ・9月 あけぼのまつり、藤代商工会まつり ・10月 赤い羽根ふれあいフリーマーケット、福祉まつり ・11月 ネットワークフェア、光風台自治会まつり ・2月 取手ひなまつり 定期販売イベントの実施 ・老人センターあけぼの内 (月2回) ・かたらいの郷内 (月1回) イベントへの参加 ・8月 「いこいの場」にて出演者としてダンス発表 ・2月 同上 (予定)			

進行 管理	成果 状況			成果状況に対する説明	
		4月～ 3月	4	予定していた既存販売イベントへの参加。 定期販売では固定客も付き販売を通じて、利用者と住民の交流が図ることができた。 昨年度に引き続き、「いこいの場」への参加、出演することで、いこいの場へ来場していただく地域住民、他の出演者との交流を深めることができた。	
	課題				
	28年度は既存イベント参加状況について精査し、参加イベント数の調整を図ったが、新規イベントへの参加は広げることができなかった。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	引き続き既存イベントにおける利用者の参加状況、販売売上状況等を踏まえ、参加について精査し、より地域社会とのつながりを深めることのできる新規イベントを探していく。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	地域支援係と連携し、「いこいの場」への継続的な出演、参加をする。				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		29年4月 ～ 29年9月	市内を中心とした地域イベントの情報を積極的に取り入れ、参加できるイベントを探し精査する。		
29年10月 ～ 30年3月		センターふじしろと地域社会が一緒に創る共催イベントの開催へ向け、地域団体等と交流、話し合いを経て、企画、立案する。			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
平成29年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

				シート作成年度	平成28年度
実施項目名	高齢者の交流の機会を増やす			担当係	老人福祉センターあけぼの
				職名	係長
事業開始年度	平成27年			担当者	氏名 橋本 睦
根拠法令等	老人福祉法				
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実ー		
	行動計画	③. (2)	魅力あるイベントの開催		
現状と課題	高齢化社会を迎え、高齢者のふれあいの機会を増やす場としての老人福祉センターあけぼのの役割は年々増していると考えます。昨年度、事業実施からわずかつですが、老人福祉センター利用者の数は増加しつつあり、今後も継続して維持していけるようにする。				
目的 (何のために)	高齢者が家に閉じこもってしまわないように、老人福祉センターあけぼのが施設として仲介を行い、高齢者の交流の機会を増やすために、魅力あるイベントを開催し、さらには、あけぼのの利用者を増加させることを目的とする。				
対象 (誰・何を対象に)	市内在住60歳以上の高齢者。				
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)	今年度は現在行っている「いきいき講座」の内容をより充実して、講座を通して高齢者同士の交流を深めて頂く。ゆくゆくは、いきいき講座の講座生の中から、あけぼのを利用して頂く小グループの育成を目指す。 来年の3月までに、小グループで1つつくります。				
平成28年度 の実施状況	今年度は、ウォーキング講座を4回、脳トレ講座・食中毒予防講座・市政・腸内細菌講座・歴史講座2回・施設見学を5回・シルバーリハビリ講座の16講座を行いました。前年度14講座より4講座増加させ、より講座生同士の交流を深めるよう努力致しました。3月までに歴史講座を1回、大学教授を呼んでの「いばらき方言講座（仮）」を実施予定です。				

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明
		4月～ 3月	3	今年度の参加者人数は前年度563人に比べ、12月時点で680名と前年度を上回る事ができました。1月に小グループを1つ結成し、2月27日に行われるシルバーリハビリ体操と合わせて、そのグループを中心にニュースポーツ講習会を実施します。
	課題			
	講座開催数を増やし、講座生同士の親睦を深める事ができたが、1グループをつくるのは、難しかった。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	講座によっては、グループ分けを行い小グループによる会話を交えたような講座を増やせればと思います。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	社協のボランティア養成担当者と協働した脳トレ講座や、リーダー養成については、茨城県保健福祉部、古河ヤクルト・茨城県老人クラブ連合会と協働して、シルバーリハビリ体操を行いました。他茨城大学の社会連携課と連携を行う予定です。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		29年4 月～年 月	来年度も引き続き、他団体と連携を取りながら行っていきます。	
		年 月 ～ 年 月		
	取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見			
	平成29年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。			

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

				シート作成年度	平成28年度
実施項目名	健康クラブ			担当係	老人福祉センターあけぼの
				職名	係長
事業開始年度	平成27年			担当者	氏名 橋本 睦
根拠法令等	老人福祉法				
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実ー		
	行動計画	③. ②	魅力あるイベントの開催		
現状と課題	高齢化社会を迎え、高齢者のふれあいの機会を増やす場としての老人福祉センターあけぼのの役割は年々増えています。しかし、現状では集客数は年々減少しており、昨年のあけぼの趣味教室無料体験のアンケート調査から老人福祉センター自体の市内の認知度が低い事が判りました。				
目的 (何のために)	高齢者が家に閉じこもってしまわないように、老人福祉センターあけぼのが施設として仲介を行い、高齢者の交流の機会を増やすために魅力あるイベントを開催し、さらには、あけぼのの利用者を増加させることを目的とする。				
対象 (誰・何を対象に)	市内在住60歳以上の高齢者。				
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	昨年度は新プログラム「脳トレ」を取手社協ボランティアセンター担当者との協力のもと、第二・第四 土曜日に開催を行い昨年1年間に289名の参加がありましたが、昨年度からの課題でもある、参加人数が少ないという課題を克服するために、今年度は、参加人数をより増やすため、取手社協ボランティアセンター担当者と講師の協力のもと、あけぼので行っている「いきいき講座」に組み入れて、よりたくさんの方がたに知っていただき、参加してもらう機会をつくります。5月までに1回講座を開催します。現在行われている健康クラブの「脳トレ」の人数を増加させます。				
平成28年度 の実施状況	4月18日いきいき講座にて「脳トレ」講座を開催しました。その後、いきいき講座の講座生にむけ、あけぼの健康クラブ（シルバーリハビリ・脳トレ・太極拳・笑いヨガ・チューブ体操）の案内を送付しました。				

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明
		4月～ 3月	3	4月いきいき講座開催時に「脳トレ」講座を開催し86名の参加がありました。いきいき講座生からは脳トレを体験は好評でした。
	課題			
	いきいき講座では脳トレは好評であったが、その後あけぼの健康クラブ利用にはつながりませんでした。第二・第四土曜日に行っているあけぼの健康クラブ脳トレの人数は12月時点で192名と前年度の同じ時期に比べ35名減少しております。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	PRの不足が考えられる為、社協広報誌や取手市広報に情報を発信していきます。減少している健康クラブには、アンケート実施を行います。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	社会福祉協議会ボランティア担当と協働して行いました。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		29年4 月～ 年 月	3月には、取手市広報に依頼をかけ、あけぼの趣味教室と一緒に募集記事を掲載します。	
		年 月 ～ 年 月		
	取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見			
平成29年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

				シート作成年度	平成28年度
実施項目名	ふれあいの機会を増やす「百人一首大会」			担当係	老人福祉センターあけぼの
				職名	係長
事業開始年度	平成26年			担当者	氏名 橋本 睦
根拠法令等	老人福祉法				
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実ー		
	行動計画	③. (2)	魅力あるイベントの開催		
現状と課題	高齢化社会を迎え、高齢者のふれあいの機会を増やす場としての老人福祉センターあけぼのの役割は年々増していると考えます。しかし、現状では集客数は年々減少しており、昨年のあけぼの趣味教室無料体験のアンケート調査から判りました。				
目的 (何のために)	高齢者が家に閉じこもってしまわないように、老人福祉センターあけぼのが施設として仲介を行い、高齢者の交流の機会を増やすために、魅力あるイベントを開催し、さらには、あけぼのの利用者を増加させることを目的とする。。				
対象 (誰・何を対象に)	市内在住60歳以上の高齢者。				
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	講師を招いて「百人一首勉強会」を年間通して計10回（5月から3月まで）開催します。そして、あけぼの事業でもある百人一首大会の参加人数も増やします。				
平成28年度 の実施状況	広報とりでにて、4月15日号募集をおこない、百人一首勉強会を開催（年間10回）計34名の参加者希望がありました。参加費は全10回で1,000円を徴収しました。 百人一首大会は、広報とりでにて、10月1日号に掲載し、10月31日に百人一首大会を開催しました。				

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明
		4月～ 3月	2	年間10回の講座を開講した事により、そこから5名の百人一首大会参加がありましたが、全体的な大会参加者は、27年度参加36名で、今年度参加者は19名となり、減少してしまいました。
	課題			
	年々参加者が減少をしている。参加者は新しい方も見受けられるが、前年度参加した方が再度参加するという数が少ない。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	前年度アンケートでのルールの見直しを行いました。今年度のアンケートでは、大変良かったが54%、まあまあ良かったが33パーセントとなりましたが、まだまだルールの明確化や、PR不足も考えられ、前年度参加した方に開催通知を出す等、必要であったと思う。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	ボランティアに依頼をして11名のボランティアの方々に参加して頂きました。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		29年4 月～	来年度は早い時期の9月からのPRを行うようにする。	
		年 月 ～ 年 月		
	取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見			
参加人数が減少しており、平成29年度から事業内容の創意工夫が必要である。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

				シート作成年度	平成28年度
実施項目名	ふれあいの機会を増やす「芸能発表会」			担当係	老人福祉センターあけぼの
				職名	係長
事業開始年度				担当者	氏名 橋本 睦
根拠法令等	老人福祉法				
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実ー		
	行動計画	③. (2)	魅力あるイベントの開催		
現状と課題	高齢化社会を迎え、高齢者のふれあいの機会を増やす場としての老人福祉センターあけぼのの役割は年々増していると考えます。しかし、現状では集客数は年々減少しており、昨年のあけぼの趣味教室無料体験のアンケート調査から判りました。				
目的 (何のために)	高齢者が家に閉じこもってしまわないように、老人福祉センターあけぼのが施設として仲介を行い、高齢者の交流の機会を増やすために、魅力あるイベントを開催し、さらには、あけぼのの利用者を増加させることを目的とする。。				
対象 (誰・何を対象に)	市内在住60歳以上の高齢者。				
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)	あけぼの芸能発表会を、より多くの人に知って頂き参加して頂くために、9月のあけぼの祭りまでに、取手市高齢者クラブ連合会やふれあいサロン・げんきサロンにも広報を行います。そしてあけぼの祭りの来場者数を増やします。				
平成28年度 の実施状況	ふれあいサロン30ヶ所・げんきサロン4ヶ所・ボランティア団体に500部チラシを配置しました。社協情報誌・取手市広報にてあけぼの祭りのPRを行いました。取手市高齢者クラブ連合会にも39会長宛てあけぼの祭り参加者募集のチラシを配布しました。他、市内公民館やスポーツセンター等26ヶ所にポスター掲示。				

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明
		4月～ 3月	4	9月17日・19日と開催したあけぼの祭りは、前年度800名の参加を超え、今年度は834名の来場者となりました。
	課題			
	芸能発表会時には、他市内のイベントと重なってしまう。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	今後も高齢者クラブなどにもPRを行い、取手地区のみならず、藤代地区の地区を広げた来場者の増加を目指します。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	取手市高齢者クラブ連合会にも通知文を出しました。げんきサロンやふれあいサロン・紫陽花ダンス・あったか民謡の趣味教室に司会を依頼。中央タウン音響チームに音響を依頼。駐車場借用に民間企業に依頼。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		29年4 月～	来年度以降も他団体と協働や連携を取りながら、イベント開催を行います。	
年 月 ～ 年 月				
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
平成29年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

			シート作成年度	平成28年度
実施項目名	さくらまつり		担当係	老人福祉センターさくら荘
			職名	主幹
事業開始年度	平成26年度	担当者	氏名	中村 多美子
根拠法令等				
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう ― 福祉サービスの充実	
	行動計画	③	魅力あるイベントの開催	
現状と課題	高齢者が気軽に通える居場所が少なくなっている中で、ふれあいの機会を増やす場としての老人福祉センターさくら荘の役割はより大きくなってきています。この目的を果たすためには利用者を増加させることを求められています。今年度もさらに利用者の増加を図るため、引き続き魅力あるイベントを開催します。			
目的 (何のために)	高齢者のふれあいの機会を増やすために魅力あるイベントを開催し、さくら荘の利用者をさらに増加させる。			
対象 (誰・何を対象に)	市内在住の60歳以上の高齢者			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させたいのかなど)	さくらまつりの活性化。 ・昨年度に比べて新規の模擬店等を3月までに1つ増加させる。さくらまつりの来場者の増加に伴い、さくら荘のPRをし、さくら荘の入館者数の増加を目指す。			
平成28年度 の実施状況	・模擬店出店予定者、協力団体等に依頼と打合せを行った。 ・駐車場確保の為、協力者への依頼を行った。 ・とりで広報 3月15日号にさくらまつりの開催の記事を掲載。			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明			
		4月～ 3月		・ 昨年に比べて新しい演芸グループ 1 を追加（筑波大学『よさこい』斬桐舞） 4月 2 日（土）10時から15時まで 『さくらまつり』 開催 模擬店－11店 演芸－ 4 団体 作品展示（書道・絵画・手芸）ダンス大会 歌謡発表 さくら荘手打ちそば教室 お茶席 さくら荘売店（ぷりむら）囲碁大会 手芸品販売など ＊来場者数 約 1,359名 駐車場案内係として5名を配置。（施設内・高井小学校・関係者駐車場） 演芸では、出演者と観客が一体となり大迫力の演舞で会場一帯が拍手喝采となり盛り上がった。			
	課題						
	・ 来場者用の駐車場の案内、PRが少ない。						
	課題解決のための改善内容・取り組み方針						
	・ 来場者用の駐車場のチラシを作成し、来場者へ配布し、駐車場の場所を案内する。						
	協働・連携事項（目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について）						
	・ ボランティアグループ、各種団体との連携。 ・ 市役所（広報係、産業振興課）との連携。 ・ つつじ園と障害者福祉センターふじしろとの連携。 ・ 取手市手をつなぐ育成会との連携。 ・ 近隣住民との連携。						
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明				
		28年12月 ～ 28年3月	・ さくらまつり（平成29年度開催）ボランティアグループ、各種団体へ依頼と打合せを行う。また、駐車場確保の為、依頼と打合せを行う。 ・ とりで広報、社協情報誌、フェイスブック、ミニコミ誌などに掲載し、情報を流す。				
年 月 ～ 年 月							
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見							
平成29年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。							

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

			シート作成年度	平成28年度
実施項目名	シニアからの英語 書いて 歌って		担当係	老人福祉センターさくら荘
			職名	主幹
事業開始年度	平成26年度	担当者	氏名	中村 多美子
根拠法令等				
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう ― 福祉サービスの充実	
	行動計画	③	魅力あるイベントの開催	
現状と課題	高齢者が気軽に通える居場所が少なくなっている中で、ふれあいの機会を増やす場としての老人福祉センターさくら荘の役割はより大きくなってきています。この目的を果たすためには利用者を増加させることを求められています。今年度もさらに利用者の増加を図るため、引き続き魅力あるイベントを開催します。			
目的 (何のために)	高齢者のふれあいの機会を増やすために魅力あるイベントを開催し、さくら荘の利用者をさらに増加させる。			
対象 (誰・何を対象に)	市内在住の60歳以上の高齢者			
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	“シニアからの英語 書いて 歌って” 基本講座 と 昨年度“シニアからの英語 書いて 歌って” の修了生を対象のステップアップ講座をそれぞれ毎月1回年間12回を実施。 ○本場の英語を体験する。(年2回) 9月 「世界旅行博」へ行き、各国から出展されるブースを廻り、英語で会話をする。 1月 国際交流協会に依頼し、外国人に参加してもらい英語で会話する。 ○受講生同士の交流会をする。(年2回) 9月 市のバスを使用し、課外学習「世界旅行博」へ行く。バスの車中や会場を数名のグループで回ることによって交流を深める。 1月 毎回練習している英語の歌を、数名のグループごとに発表し受講生同士の交流を深める。 ○簡単な英語の会話が出来るぐらいを目指す。			
平成28年度 の実施状況	・ 4月22日(金) 基礎10:00~12:00 ステップアップ13:30~15:30 各講座で開講式を開催した。 ・ 本場の英語を体験では『2016 ツーリズムEXPOジャパン』の課外授業を行った。各国からの出展ブースを回り、各国の人たちの本場の英語体験した。 ・ 受講生同士の交流では『2016 ツーリズムEXPOジャパン』の課外授業へ行くバスの中や出展会場をグループごとに回ることによって、受講生同士の交流ができた。 ・ 簡単な英語の会話では、『2016 ツーリズムEXPOジャパン』の課外授業へ行って、各国の人たちと会話を楽しんだ。			

進行 管理	成果 状況	成果状況に対する説明	
		4月～ 3月	シニアからの英語 書いて歌って 基礎・ステップアップ講座をそれぞれ 毎月1回年間12回実施 述べ出席者数 基礎 204名 参加費 300円 述べ出席者数 ステップアップ 111名 ・9月24日（土）『2016 ツーリズムEXPOジャパン』開催 参加費 1,500円 参加者 33名 課外授業を開催、本場の英語を体験ができて楽しかったとの声が多数あがった。会場内をグループに分けて回ることによって何か国ものブースを回れた、受講生同士の交流も深まったとの声があった。
	課題		
	・本場英語を体験する中で、外国人に講座に来てもらい会話を楽しむことが実現できなかった。（平日だと難しい）		
	課題解決のための改善内容・取り組み方針		
	・講座の内容を充実させるために、アンケート調査を早い時点で行い講座の内容（交流会等）を検討する。		
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)		
	・国際交流協会との連携。		
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明
		29年4月 ～ 30年3月	・とりで広報 新規講座生募集の記事を掲載。 ・基礎、ステップアップ講座を毎月1回開催。 ・本場の英語体験と交流会の開催。 ・講座内容等に関するアンケートの実施。
		年 月 ～ 年 月	
	取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見		
	平成29年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。		

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

				シート作成年度	平成28年度
実施項目名	郷土史巡りウォーキング			担当係	老人福祉センターさくら荘
				職名	主幹
事業開始年度	平成26年度			担当者	氏名 中村 多美子
根拠法令等					
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう ― 福祉サービスの充実		
	行動計画	③	魅力あるイベントの開催		
現状と課題	高齢者が気軽に通える居場所が少なくなっている中で、ふれあいの機会を増やす場としての老人福祉センターさくら荘の役割はより大きくなってきています。この目的を果たすためには利用者を増加させることを求められています。今年度もさらに利用者の増加を図るため、引き続き魅力あるイベントを開催します。				
目的 (何のために)	高齢者のふれあいの機会を増やすために魅力あるイベントを開催し、さくら荘の利用者をさらに増加させる。				
対象 (誰・何を対象に)	市内在住の60歳以上の高齢者				
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	小貝川源流と重要文化財を訪ねるを6月までに実施。 ・案内役として新四国相馬霊場八十八カ所を巡る会の会員の方にお願ひし、小貝川源流のウォーキングと木造日本一の寝釈迦像・国指定重要文化財の三重塔を見学、健康増進と教養の向上を図ると共に、ふれあいの機会を増やすことを目指す。				
平成28年度 の実施状況	・案内役の新四国相馬霊場八十八ヶ所を巡る会の会員の方達と日程、コース、ポスター、トイレ休憩場所などの打合せを行った。 ・とりで広報 5月1日号に参加者募集の記事を掲載。 ・5月2日(月)より参加者募集の申込み開始。 ・6月1日(木)『小貝川源流と重要文化財を訪ねる旅』を市有バスを利用し開催。 *見学場所：専修寺 栃木県真岡市高畑 小貝川源流 栃木県烏山市曲畑 小山寺富谷観音 桜川市富谷 以上3か所を見学。				

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		4月～ 3月		・ 6月1日（木）『小貝川源流と重要文化財を訪ねる旅』開催。 申込総数 165名 参加者 34名 案内役 4名 参加費 500円 ※アンケート調査結果 回答者数 29名 普段いけない所に行けて楽しかった。との回答が多数あった。 ポスターを老人福祉センター2カ所に掲示。	
	課題				
	・ 参加者募集をとりで広報掲載したところ、FAXでの申込みが深夜より受付開始になってしまった。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	・ 参加者募集をとりで広報に掲載する時は、FAXと電話での受付開始時間をきちんと掲載する。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	・ 案内役の新四国相馬霊場八十八ヶ所を巡る会の方達との連携。				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		29年4月 ～ 30年3月	・ 案内役の新四国相馬霊場八十八ヶ所を巡る会の方達と日程、コースの内容を打合せをする。 ・ とりで広報に参加者募集の記事を掲載。		
年 月 ～ 年 月					
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
平成29年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

			シート作成年度	平成28年度
実施項目名	ボランティアの受け入れ、交流会の実施		担当係	つつじ園
			職名	係長
事業開始年度	平成26年度	担当者	氏名	濱田 正之
根拠法令等				
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう 福祉サービスの充実	
	行動計画	③	福祉施設との交流の機会を増やします。	
現状と課題	ここ数年、ボランティアの受け入れは積極的に行ってきました。戸頭地域のボランティアや民生委員さん等、特定のグループに支援はいただいておりますが固定化、高齢化、若者の参加が少ないところです。新規のボランティアさんの開拓を目的にボランティアポイントカードの運用を試験的に始めたいと思います。			
目的 (何のために)	障害者と市民の交流の場となるようにふれあいの機会を増やします。			
対象 (誰・何を対象に)	つつじ園利用者、職員がボランティア希望者を対象とする。			
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで に・どのレベル まで達成させたいのかな ど)	広くボランティアを募集する中で作業、散歩、外出支援など得意なボランティア活動に取り組む中でつつじ園の利用者と関わっていただきたい。その中で障害者への理解を深めていただくとともに、レクリエーション活動（芋ほり&焼き芋、バーベキュー、流しそうめん、ウォークラリーなど）行事などにも参加していただき、徐々に地域の皆さんが気軽に集まれる場となっていくようにしたいです。また昨年度始めて実施し好評であった「つつじ園ボランティア交流会」についてはさらにパワーアップしたイベントとなるよう創意工夫したいと思います。 ボランティアポイントカードを利用した新規ボランティアさんの獲得には職員一丸となって取り組みボランティア数の増加を目指します。			
平成28年度 の実施状況	9月末にボランティア交流会を実施、本年度は約50名のボランティアさんに参加いただきました。またボランティアポイントカード、通称「ボラビカード」についての説明も合わせて行いました。ボラビカードについては10月より運用を開始し、利用者の工賃に還元されるシステムが支持され多くのボランティアさんの活動参加へのモチベーションとなっています。 ボランティア活動の内容についてはその幅は少しずつ広がり、本年度は外出支援への同行などにも参加をいただいております。			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明
		28年 4月 ～ 3月	4	4月当初からボランティア参加者の数を正確に把握する仕組みを構築しました。ボラビカードを導入した10月以降についてはボランティア参加者数も増加傾向にあります。しかしながら新しいボランティアさんが増加したというよりは既存のボランティアさんがさらに力を入れて活動していただいているのが現状です。
	課題			
	昨年度も課題としてあげられていた若者のボランティア参加についてはまだまだ不足しています。また通常行っている作業補助以外にもボランティアの皆さんの経験、技能、知識を生かせるような新たな活躍の場について引き続き検討していきたいです。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	ボラビカードについての広報、啓蒙活動を進めるとともに、夏休み期間など学生が参加しやすい期間にボラビカードを利用したキャンペーン活動を行い、若者のボランティア参加のきっかけ作りを進めたいと思います。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	ボランティア支援センター、地域の民生委員との連携を強化していくとともに近隣小中高校とは実習等からボラビカードを活用し、その後のつつじ園でのボランティア活動につながるような流れを作っていきたいと思います。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		29年 4月 ～	29年度も引き続き「ボラビカード」の運用を軸にボランティア参加者の増加を目指します。 特に近隣学校との関係を強化し、若者のボランティア参加を目的としたキャンペーン、新たなイベント等を実施する中でつつじ園におけるボランティア活動のさらなる充実を目指します。交流会については継続して実施、今まで以上に職員、利用者、ボランティアのコミュニケーションをはかる場としての機能を発展させていきたいと思います。	
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
平成29年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成28年度
実施項目名	取手市立保育所との保育交流	担当係		取手市立こども発達センター
		担当者	職名	児童発達支援管理責任者
事業開始年度	平成26年度		氏名	宮崎江美子
根拠法令等				
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう——福祉サービスの充実	
	行動計画	③	福祉施設との交流の機会を増やします	
現状と課題	■現状：こども発達センター年少・年中・年長の単独通園児が毎月1回、午前中1時間程度、取手市立の保育所（7箇所）の集団活動に参加し交流を行う。保育交流以外にも近隣保育所の園庭の開放をして頂き、地域のお子様との交流を深めていく。 ■課題：双方の保育士及び指導員間の情報交換の頻度を上げる必要がある。			
目的 (何のために)	■当センターの単独通園児が地域で同年齢のこども達との集団生活を通し交流することにより対人関係を構築し社会性を身に付けていく。			
対象 (誰・何を対象に)	■当センターの単独通園児と各保育所のこども達を対象。			
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	■上記のとおり当センター単独通園児と取手市立の保育所園児との保育交流を行っている。 【保育交流の流れ】 ～ 9:50 保護者が各保育所に送る 10:00～11:00 保育所の活動に参加 11:15 当センター送迎車にて保育交流に参加した保育士、子供の迎え 11:30～ 当センターに戻り各クラスの通常活動に参加 ■交流日以外でも同年齢のこども達と関わりを増やせるように、地域との関係性を築いていく。また近隣の保育所の園庭を開放して頂き交流を深めていく。 ■保育交流開始前に各保育所の担当の先生方と活動内容の確認と情報交換を行う。また年度末に行われる保育所長会議に参加し、反省点や受け入れ側の意見を伺う。これ以外にも必要に応じ双方の意見交換を行い、1年を通し事業の充実向上に努めていく。			
平成28年度 の実施状況	■4月13日、センター長と担当保育士2名で公立保育所7箇所、挨拶訪問実施。 4月22日、発達センターにて各保育所の担当保育士と事前連絡会を実施。参加人数や活動内容の確認等を行ない、担当保育士間の交流を深めた。 ■4月中には交流に参加する利用児のグループを決定し、5月より保育交流が実施できるように検討する。 ■毎月、担当保育士間で電話での連絡を行い、参加人数や活動内容の確認を行いながら実施した。			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明
		4月～ 3月	3	■単独通園を利用児が毎月1回、定期的に市内公立保育所との保育交流を行い、地域のお子さんに関わることで経験の幅を広げることができた。 白山保育所（第2火曜日）：3名 久賀保育所（第1水曜日）：2名 舟山保育所（第3水曜日）：1名 永山保育所（第1木曜日）：1名 中央保育所（第2火曜日）：4名 吉田保育所（第4火曜日）：2名 戸頭北保育所（第2水曜日）：2名
	課題			
	■交流日以外でも地域のお子さんとの触れ合いが広がるようにしたい。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	■近隣保育所と話し合い園庭開放を実施して頂き交流を深めて行きたい。			
	協働・連携事項（目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について）			
	■各保育所と発達センターとの行事や活動の調整を行ないながら親交を深めていく。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		28年4月～ 29年3月	■担当保育士間で連絡会を行い日程調整を確認しながら、保育交流の目的である地域の中で同年齢のお子さんとの触れ合い、他者とのコミュニケーションの場として今後も継続的に実施していく。	
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
平成29年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

				シート作成年度	平成28年度
実施項目名	世代間交流			担当係	老人福祉センターあけぼの
				職名	係長
事業開始年度	平成27年			担当者	氏名 橋本 睦
根拠法令等					
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実ー		
	行動計画	③. (3)	ふれあいの機会を増やします。		
現状と課題	高齢化社会を迎え、世代間交流の場が少なくなってきました。 老人福祉センターあけぼのは、子供と高齢者のふれあいの場の機会をつくります。				
目的 (何のために)	老人福祉センターあけぼのが施設として仲介を行い、あけぼの利用者と子ども達の交流の場を増やす機会をつくる。。				
対象 (誰・何を対象に)	市内在住60歳以上の高齢者と小学生。				
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	今年度は、陶芸教室に依頼を行い親子参加型の陶芸教室を3月までに開催し、高齢者と子どものふれあいの機会を増やします。 他に、取手市消防本部総務課と連携して、11月中に市内幼稚園の園児の火災予防お遊戯会を計画中です。11月までに1回開催を行います。				
平成28年度 の実施状況	親子陶芸教室は、8月1日号広報にて、夏休み親子陶芸教室参加者募集を行い8月20日土曜日に行いました。 取手市消防本部総務課と連携して「防火訪問2016・秋」と題して11月2日 あけぼの大広間にて開催しました。趣味教室のドリームソングの方々に協力して頂き、チューリップ幼稚園の園児たちとの交流を行いました。				

進行 管理	成果 状況			成果状況に対する説明
		4月～ 3月	4	親子陶芸教室は、10組23名の祖父母の参加がありました。アンケート結果では、大変良かったが8割をしめました。10組がまた参加したいという回答も頂きました。また、次回開催を強く願っていますともご意見を頂きました。アンケート結果で、あけぼの施設の存在を知らなかったという3組の親子がいた事を知り、講座開催を通して、あけぼの施設の周知も出来るという事が分かりました。 取手市消防本部協働開催をした「防火訪問2016・秋」は、ドリームソング21名、チューリップ幼稚園児23名保護者15名の参加がありました。他一般参加で3名の参加がありました。子供達はお遊戯を披露し、ドリームソングからは、叙情歌（里の秋ともみじ）を披露して頂き子供達のお遊戯に「感動した」と言うご感想を頂きました。子供達は、ドリームソングが歌う叙情歌を集中して聞き入りお互いに交流が深まりました。
	課題			
	防火訪問は、一般向けに開催を行えればと考えていましたが、人の集客が見込めるか不安であった為、趣味教室の方々にご協力を頂く形になりました。結果、園児保護者の見学もありました。大広間は横長の会場づくりの為、会場づくりにもう少し工夫が必要でありました。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	幼稚園生のお遊戯見学時に、声をおかけしたドリームソングの方々は大広間に座布団に座れない高齢者の方が多かったので、座椅子による会場づくりが必要と感じました。チラシ配布による広報活動を行い、一般の参加者も集めます。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	取手市消防本部総務課との趣味教室のドリームソングと協働にておこなないました。あけぼの趣味教室の陶芸同好会ボランティア担当とも連携をして進めました。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		29年4 月～ 年 月	来年度もあけぼの趣味教室にご協力を頂きながら開催していきたいと思います。	
年 月 ～ 年 月				
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
平成29年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

				シート作成年度	平成28年度
実施項目名	高齢者クラブ連合会			担当係	老人福祉センターあけぼの
				職名	係長
事業開始年度				担当者	氏名 橋本 睦
根拠法令等	老人福祉法				
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実ー		
	行動計画	③. (1)	ふれあい交流活動への取り組み		
現状と課題	高齢化社会を迎え、高齢者のふれあいの機会を増やす場としての老人福祉センターあけぼのの役割は年々増していると考ええる。地域福祉に関する市民意識調査の中でも高齢者の集まれる場が少ないと地域の問題としてもあげられている。現在、この問題の解決策の一つともなりえる高齢者クラブの活動や内容があまり市民に周知されていない。				
目的 (何のために)	健康づくりを進める活動やボランティア活動を通じて、地域を豊かにする各種活動を行う。				
対象 (誰・何を対象に)	市内在住おおむね60歳以上の高齢者。				
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	今年度は重点的に取手市高齢者クラブを市内に周知させていく為に、PR活動や取手市高齢者クラブで行うスポーツ大会等を通して知って頂く。 あけぼので行っている「いきいき講座」を通して取手市高齢者クラブ連合会を周知させていただきます。合わせて、来年3月までに取手市高齢者クラブ連合会だよりを1回発行を行い、各単位クラブに配布して各地域の会員数の増加を図ります。				
平成28年度 の実施状況	6月と10月と11月にのぼり旗を使い、大会時PRを行いました。事業の具体的内容でも掲げている通り、11月30日、いきいき講座生向けに県老人クラブと協働して福祉交流センターにてシルバーリハビリ体操講習会を開催し高齢者クラブPRをおこないました。取手市高齢者クラブ連合会だよりは、取手市高齢者連合会パンフレット作成という形で行い、3月までに作成予定です。				

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明
		4月～ 3月	3	茨城県老人クラブ連合会と取手市高齢者クラブ連合会共催にて行われたシルバーリハビリ体操講習会には、いきいき講座からは40名の参加がありました。
	課題			
	取手市高齢者クラブ連合会の口頭説明だけでは、伝わりにくい面もあり、全体的なパンフレットが必要だと実感しました。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	1月中旬に、パンフレット作成あたり、業者と打合せを行う予定です。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	茨城県老人クラブ連合会及び取手市高齢者クラブ連合会からも資料等を頂き、作成を考えております。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		29年4 月～年 月	作成したパンフレットを高齢者クラブ連合会総会時に配布し、会員増強運動に役立ててもらう。	
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
平成29年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

				シート作成年度	平成28年度
実施項目名	市内、小・中・高校の実習受け入れ等による地域交流活動			担当係	つつじ園
				担当者	職名
事業開始年度	平成26年度				氏名
根拠法令等					
プランにおける該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう 福祉サービスの充実		
	行動計画	④	お互いを理解しあう意識啓発に努めます。		
現状と課題	以前より実習の受け入れは行っているが近隣の数校に限られているのが現状です。本年は新規で実習を行いたい学校に積極的に働きかけて利用者との交流の機会をより多く設けていきたいと思います。				
目的 (何のために)	交流を深めることによって知的障害について理解していただくきっかけとなるようにしたい。				
対象 (誰・何を対象に)	つつじ園利用者、職員が近隣市町村の小、中、高校生を対象とする。				
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)	戸頭小、戸頭中、取手二高など今まで受け入れを行ってきた近隣の学校以外にも実習を希望する学校に積極的に働きかけを行い、クラブ活動、作業、清掃活動、体力づくり等の時間で受け入れます。その中で事前の打ち合わせや受け入れ後のフォローアップを含め、生徒さんが直接利用者に関わっていただく機会を出来るだけ多く設け、お互いにうまくコミュニケーションが取れるようにサポートしていきたいです。興味のある生徒にはその後のボランティア活動につながるような支援もしていきたいです。				
平成28年度 の実施状況	近隣の学校の実習については本年度も可能な限り受入れを行いました。聖徳高校など新規で受入れが始まったケースもありました。各方面を通じてその後のつつじ園でのボランティア活動への参加を働きかけはしましたが、やはり今年度もつつじ園まつり以外での参加には至らなかったのが現状です。				

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明
		28年 4月 ～ 3月	2	今年度も学校からの実習は積極的に受け入れ、その際はボランティア募集のチラシ等も可能な限り配布させていただいた。事前の打合せ、受け入れ後のフォローアップと言う側面では不十分であったこともあり、その後のボランティア活動にはつながりませんでした。またボラビカードを使用しての活動については小中高校生にまでは実施に及んでいません。
	課題			
	実習を通じて交流を深めるところまでは至らなかったです。昨年度と同じく、実習後に引き続き継続してつつじ園と関わっていただけるような雰囲気と支援体制を構築する必要があると思われます。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	今まで以上に学校側の担当者との連携を取り、ボラビカードを活用して実習後に希望者がいつでもつつじ園でのボランティア活動に参加していただけるような仕組みを作っていきたい。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	近隣小中高校との連携の強化、実習の受け入れについては地域を広げることを検討したい。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		29年 4月 ～	今まで同様の実習を通じての交流を継続していく中で、29年度についてはボラビカードを使用し、その取り扱いの幅を広げ、実習の際に説明することによって、その後のつつじ園とかかわりをもっていただけるような体制の構築を目指します。	
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
平成29年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成28年度	
実施項目名	学校授業における職場体験学習/福祉体験学習の受け入れ		担当係		障害者福祉センターあけぼの
			職名	係長	
事業開始年度	平成27年度		担当者	氏名	海老原 武
根拠法令等	障害者の日常生活および社会生活を総合的に支援するための法律				
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実		
	行動計画	④	お互いを理解しあう意識啓発に努めます		
現状と課題	身体障害をお持ちの方への差別や偏見を無くすため、健常者と広く世代を超えた交流を図れる場を設けていく事が課題と考えられます。				
目的 (何のために)	身体障害をお持ちの方と身近に接し理解して頂くことにより、差別と偏見を無くすよう市民意識を変えていく中で、小中学校の若い世代を中心に意識啓蒙に努めていきます。				
対象 (誰・何を対象に)	あけぼの近隣の小中学校の児童・生徒を対象に行います。				
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	①事業実施へ向けての準備期間（5～8月） 社協の地域支援係と連携し、5月に開催される校長会において施設パンフレットを配布のうえ、職場体験/福祉体験学習の一環として受け入れる用意がある旨を連絡し、参加希望される学校を把握の後、各校担当者と日程調整を行っていきます。 ②事業実施（9月～3月） 年度内に3回程度、延べ20人以上の参加を持って実施。 事前にあけぼの利用者へ事業の趣旨説明を行い、クラブ活動等を通して障害当事者との交流を持てる機会を提供します。				
平成28年度 の実施状況	①事業告知（5～12月） 5月9日に開催された小中学校長会にて施設パンフレットを20校へ配布。また7月5日・6日に開催された中高校長会においても同パンフレットを13校へ配布し、児童生徒の職場体験/福祉体験学習の一環として受け入れる用意がある旨を連絡しました。 11月に近隣中学校担当教諭へ（戸頭、永山、取手2中）改めて事業の趣旨と目的を説明するも、福祉体験を選択する生徒がなく、12月に取手2高校長へ事業の趣旨と目的を説明し、家政科3年生生徒へ体験学習参加の告知を行ないました。 ②職場体験学習実施予定（1～2月） 2月24日に取手2高生6名程度の参加による福祉体験学習を実施予定。また当日は障害者センター事業として、ヤクルト職員による「腸内細菌について」の講演会を予定しており、併せて参加して頂く予定です。				

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明
		4月～ 3月	3	障害者センター利用者への教養事業として、ヤクルト職員による講演会を実施。取手2高バスケットボール部10名と一緒に参加し、利用者・生徒共に同じ学びの場につき理解を深めてもらう。 講演会終了後は利用者との会話もはずみ、身体機能障害に対する理解を深めながら楽しげに交流する場面も見られた。
	課題			
	当初の予定では年3回程度、複数の学校より児童生徒の参加を見込み、広く交流の場を設ける予定でしたが、例年参加されている中学校から体験参加を希望する生徒がなく、改めて今回参加予定の取手2高と打ち合わせての事業実施となってしまいました。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	年度当初の4月より近隣小中学校を訪問し、実習担当教諭との打合せを実施。児童生徒の年間指導プログラムに組み入れてもらえるよう依頼し、事業実施に繋げてまいります。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	社協地域支援係と連携し、次年度の校長会等においても事業説明を行なっていきます。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		28年4月 ～ 29年3月	引き続き体験学習の受入れを行い、身体障害者に対する理解を深めて頂けるよう普及啓蒙していきます。	
	取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見			
	平成29年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。			

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成28年度																																								
実施項目名	地域の中学校・高等学校との交流事業	担当係		取手市立こども発達センター																																								
		担当者	職名	児童発達支援管理責任者																																								
事業開始年度	平成27年度		氏名	宮崎江美子																																								
根拠法令等																																												
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう——福祉サービスの充実																																									
	行動計画	④	お互いを理解しあう意識啓発に努めます																																									
現状と課題	■現状：中学校、高等学校を中心に発達センターの役割りについて理解を深めていただく為、療育（補助）へのボランティア参加を呼びかけている。しかし現状では学校側や生徒自身からの希望がほとんどない状態である。 ■課題：学校側との調整が充分ではなく、発達センターのボランティア受け入れが周知しきれていない。今後、ホームページや社会福祉協議会の情報誌にボランティア受け入れについての情報を掲載する。今後は幼児教育、障害福祉に興味を持つ大学生のボランティア受け入れについても積極的に行なっていく。																																											
目的 (何のために)	■異世代間の交流により利用児とふれ合う機会を増やし、地域の中で発達センターが果たす役割りについて理解を深めていただく。																																											
対象 (誰・何を対象に)	■取手市内の中学生、高校生及び大学生。																																											
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた いのかなど)	■他事業所との情報共有を行ないながら、生徒達のボランティア体験の場として提供できるように学校側の福祉教育等にアプローチする。 ■ボランティアとして参加する生徒には単独通園の通常プログラムに参加していただき、利用児の様子や職員の利用児に対する関わり方等を実際に経験し理解を深めていただく。また、運動会やお楽しみ会等の行事においてもボランティアの募集を行なう。 【交流の流れ】 ～ 9：30 打ち合わせ 10：00～13：30 単独通園体験 ・着替え補助、自由遊び ・朝の集まり、体操 ・課題（製作、感触遊び、散歩など） ・昼食、自由遊び ・帰りの会、降園 ■ボランティア体験後に感想等を踏まえ更に発達センターについて理解を深めていただく。																																											
平成28年度 の実施状況	■随時、一般の方のボランティアを受け入れていく。 特別支援学級教諭、大学生、保育士等、17名よりボランティアの希望があった。 <table border="0"> <tr> <td>6月</td> <td>特別支援学校教諭</td> <td>1名</td> <td>3日間</td> </tr> <tr> <td></td> <td>聖徳大学生</td> <td>4名</td> <td>1日</td> </tr> <tr> <td></td> <td>星美学園短大生</td> <td>1名</td> <td>1日</td> </tr> <tr> <td></td> <td>保育士</td> <td>3名</td> <td>3日間</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>特別支援学校教諭</td> <td>1名</td> <td>1日</td> </tr> <tr> <td></td> <td>保育士</td> <td>2名</td> <td>2日間</td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td>保育士</td> <td>2名</td> <td>2日間</td> </tr> <tr> <td></td> <td>茨城大学生</td> <td>1名</td> <td>1日</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>特別支援学校教諭</td> <td>1名</td> <td>1日</td> </tr> <tr> <td></td> <td>東洋大学生</td> <td>1名</td> <td>5日間</td> </tr> </table> ■他事業所との情報を共有し、近隣でボランティアを実施している高等学校に問合せをした。 ・茨城県立藤代紫水高等学校 ・茨城県立取手第一高等学校 ・茨城県立取手第二高等学校 ・私立取手聖徳女子高等学校				6月	特別支援学校教諭	1名	3日間		聖徳大学生	4名	1日		星美学園短大生	1名	1日		保育士	3名	3日間	7月	特別支援学校教諭	1名	1日		保育士	2名	2日間	8月	保育士	2名	2日間		茨城大学生	1名	1日	9月	特別支援学校教諭	1名	1日		東洋大学生	1名	5日間
6月	特別支援学校教諭	1名	3日間																																									
	聖徳大学生	4名	1日																																									
	星美学園短大生	1名	1日																																									
	保育士	3名	3日間																																									
7月	特別支援学校教諭	1名	1日																																									
	保育士	2名	2日間																																									
8月	保育士	2名	2日間																																									
	茨城大学生	1名	1日																																									
9月	特別支援学校教諭	1名	1日																																									
	東洋大学生	1名	5日間																																									

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

			シート作成年度	平成28年度	
実施項目名	助けあいのまちづくり推進事業		担当係		地域支援係
			担当者	職名	係長
事業開始年度	平成27年度			氏名	小林一郎
根拠法令等					
プランにおける 該当項目	行動目標	4	みんなで集まり、協力しよう一連携強化と拠点づくり		
	行動計画	①	町内会（自治会）の活動を支援します。		
現状と課題	自治会への加入率の減少、少子高齢化により、自治会の多くは活動が困難になっている。一方、今後ますます高齢化が進み、福祉サービスが不足する中で地域の助け合い活動が重要になってくる。地域でできることを考え、誰もが参加しやすい仕組みづくりが望まれる。				
目的 (何のために)	誰もが地域の事を考えより良い福祉のまちづくりを実現するために、地域住民による「支えあい」「助けあい」による取り組みに対して活動費の一部を助成することによって、「助けあいのまちづくり」の推進を図ることを目的とする。				
対象 (誰・何を対象に)	取手市内自治会、町内会				
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させたいのかなど)	「助けあいのまちづくり」を実践している、もしくはこれから取り組む自治会（町内会）を公募し、趣旨に合った団体を選定し助成額を交付する。助成金は1団体につき、1回に限り10万円を上限とし、助成した活動について事業終了後は報告書を提出してもらう。6月1号広報とりでで「助けあいのまちづくり推進事業」の内容等記載し募集をかける。今年度5団体を目標に助成する。				
平成28年度 の実施状況	広報とりで6月号で「助けあいのまちづくり」推進事業助成金について広報し、広く助けあいのまちづくりの活動を推進する地域を募る。今回八重洲ニュータウン自治会と戸頭町会自主防災会の2団体から応募があり、助成金を交付した。				

進行 管理	成果 状況			成果状況に対する説明
		4月～ 3月	3	八重洲ニュータウン自治会では空き巣などの防止に効果のある防犯プレートの設置、戸頭町会自主防災会では町会内に在籍する51名の防災リーダーの育成事業に対して助成金を交付した。上限である5団体には助成できなかったが地域の活動への一助となり今後このような素晴らしい活動を実施できる地域を増やしていく。
	課題			
	広報とりで等で全地域対象として広報をしたが八重洲ニュータウン自治会と戸頭町会自主防災会の2地区のみの申請になった。多くの地域の参加により、様々な地域でまちづくりに関して考えてもらえるよう広報の充実を図る。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	広報活動の充実、どのような目的かを明確にし、まちづくりに関心を持ってもらう。また、今年度の取りんだ地域と同じような活動をしている団体を対象にまちづくりに必要な経費として助成金を活用してもらえよう個別に説明を行う。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	まちづくりに関する活発な活動をしている自治会、町内会、自主防災会等に趣旨説明をし、参加を促す。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		29年4 月～ 30年3 月	平成28年度も1団体10万円を限度に総額50万円として地域のまちづくりに対して助成金を交付する。様々な課題を話し合い、取り組みについての報告により今後のまちづくりの参考にして、社協での取り組みの方向性についての参考にする。	
	年 月 ～ 年 月			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
平成29年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成28年度	
実施項目名	小地域助け合い活動		担当係		地域支援係
			担当者	職名	係長
事業開始年度	平成26年度		氏名	小林一郎	
根拠法令等					
プランにおける 該当項目	行動目標	4	みんなで集まり、協力しようー連携強化と拠点づくり		
	行動計画	①	地域福祉推進体制を整備します		
現状と課題	小地域の中で様々な団体が活動し、それぞれの活動で成果を上げているが、地域全体でのネットワークや協働がない。				
目的 (何のために)	小地域の中で、自治会やボランティア、民生委員、行政、企業、施設等、情報を共有し、ネットワークをつくり、共に協力し合い、地域には何が必要か、何ができるかを話し合い、より良い地域づくりを目指す。				
対象 (誰・何を対象に)	自治会、ボランティア、民生委員、行政、企業、施設等団体の代表者				
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	自治会、ボランティア、民生委員、行政、企業、施設等団体の代表者により今後の課題を話し合えるような仕組みづくりをめざし、地域包括支援センターとの協力し、地域での取り組みについての研究会等の会議に積極的に参加する。今年度1団体を目標に昨年度から行っている「助けあいのまちづくり推進事業」助成金の説明もしながら、まちづくりに積極的な自治会等をモデル地区として地域内ネットワーク化を図る。				
平成28年度 の実施状況	地域包括支援センターが行っている地域包括ケアシステム構築に向けての座談会に5圏域全てに参加。地域での活動や課題等の話を聞くことができた。さらに第2層の協議体が結成され、会議にもオブザーバーとして参加。今後の地域福祉に関しての方向性など会を重ねていき、地域課題等の情報を共有し検討していく機会を得た。				

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明
		4月～ 3月	3	それぞれの地域で少子高齢化の社会で様々な問題があり、解決には公的サービスでまかなえないことが現実問題としてある。それを地域での課題に対して地域の活動を把握し、活動を知ることは問題解決に向けて重要な工程のため、会議に参加し得た情報を集約する。また、「助けあいのまちづくり」推進事業の助成金を紹介して社協としても地域のまちづくりに参画していくことが考えられる。
	課題			
	地域ごとでそれぞれ違う課題をもち、それぞれ対策が必要になる。地域での取り組みを行っている先進的な自治会や少子高齢化対策など小地域での活動の把握が必要。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	地域ごとにそれぞれの問題があり解決には地域での取り組みが不可欠になる。また、地域性などの問題もそれぞれ類似する課題を精査する。協議体では問題解決に向けての話し合いも、地域を一番よく知っている市民の参加のもと開催されるため、解決に至らないまでも、解決に向かった指針は示されると予想される。今後先進的な自治会や少子高齢化対策などを行っているところを他市町村も視野に入れて視察し、社協としてもまちづくりや地域づくりについて調査研究する。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	自治会町内会の活動について市民協働課等より活動の情報をなどをいただき調査する。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		29年4月～ 30年3月	協議体での地域課題に解決への方向性や地域資源の把握、より多くの地域の情報を収集する。また、小地域での活動を行う自治会、町内会、自主防災会など、まちづくりの推進を行う団体が社協と連携し、活動展開する。	
年 月 ～ 年 月				
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
平成29年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成28年度	
実施項目名	共生型地域交流拠点の設置・運営		担当係		障害者福祉センターふじしろ
			担当者	職名	主事
事業開始年度	平成28年度		氏名	平嶋浩司	
根拠法令等					
プランにおける 該当項目	行動目標	4	みんなで集まり、協力しよう一連携強化と拠点づくり		
	行動計画	-3	地域のニーズに応じた社協活動を進めます。		
現状と課題	近隣地域において、ボランティアの活動者が不足している。地域活動の参加者の高齢化や参加者が特定の人に限られており、地域社会において住民のつながりが希薄化している。各世代の交流はあっても、子供から高齢者まで幅広い世代間の交流を持てる機会、場所が少ない。				
目的 (何のために)	地域住民が出会い、世代間・障害の有無などの垣根を越えてつながり、理解し合い、共に助け合っていることが実感できるまちづくりのきっかけをつくるため。				
対象 (誰・何を対象に)	市民全般				
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	■障害者就労支援の場 ・障害のある方が地域住民とふれあいながら自分らしく就労できる場所の設置 ・「カフェ」「福祉の店」の設置・運営（10月） ■ボランティア活動の場 ・「カフェ」「福祉の店」等でボランティア活動をおこなうことで、障害のある方と交流し、助け合うことの大切さを実感できる場所づくり。 ・ボランティア活動推進の為、ボランティアポイントカードシステムの試験的導入。（10月） ■地域コミュニティ推進の場 ・ボランティア活動、ワークショップ等を通じて、地域住民同士が世代を越え交流できる場所づくり。 ・趣味・仕事等の経験を活かしたワークショップ開催				
平成28年度 の実施状況	・共生型地域交流拠点の～ま（カフェウェルカム）の設置、運営開始（10月） ・カフェウェルカムにおける福祉センターふじしろ利用者の就労訓練実習開始。 ・近隣施設（ポニーの家、ふくろうの郷、ほほえみ）の自主生産品を拠点内にて販売開始。 ・カフェウェルカムにおける接客補助等ボランティアの参加推進（10月～12月 延人数46名） ・ボランティアポイントカードシステム（ボラビカード）の導入（10月 平成28年度ボランティア延人数217名※12月現在） ・「なごみの郷」認知症カフェの試験的開催（12月、2月）				

進行 管理	成果 状況	成果状況に対する説明	
		4月～ 3月	4 ・共生型地域交流拠点の～ま（カフェウエルカム）の設置・運営開始、ボランティアカードの導入により、地域住民が様々な形で福祉活動に参加できるシステムを始めることができた。 ・カフェウエルカムのオープンにより、地域住民のセンターふじしろに対する認知度も向上し、固定客の確保により就労訓練する利用者と地域住民の交流機会も増加している。 ・カフェウエルカムの様々な活用方法の一つとして、「なごみの郷」認知症カフェを試験的に開催することができた。
	課題		
	カフェウエルカムの運営により地域住民の利用が増加し、福祉活動推進にはつながっているが、まだまだ認知度は低い。 地域コミュニティ創り推進の場としては、次年度における具体的な取り組みが必要。		
	課題解決のための改善内容・取り組み方針		
	カフェウエルカムの地域における認知度を向上させるため、広報活動に取り組む。 地域コミュニティ推進の場として、地域住民、団体等と連携した具体的な活動の実施。		
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)		
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明
		29年4月 ～ 29年9月	「なごみの郷」認知症カフェの開催。 ワークショップの企画、主催者、団体等の精査。 拠点内レンタルギャラリースペースの一般開放。
		29年10月 ～ 30年3月	ワークショップの開催。
	取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見		
	平成29年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。		

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成28年度		
実施項目名	子ども会協働事業	担当係		地域支援係		
		担当者	職名	係長		
事業開始年度	平成27年度		氏名	小林一郎		
根拠法令等						
プランにおける 該当項目	行動目標	5	子育て支援の促進			
	行動計画	①	子ども会活動を支援します			
現状と課題	自治会の活動で役員になりたがらないという話が聞かれる。子供会の活動は将来その地域にかかわる第一歩であるため重要となる。将来の地域を支える起点として従来の子ども会活動とは視点を換え、防災、防犯など自治会が行う地域の活動に参加しながら地域に目を向け今の子供たちが将来大人になった時、地域に関心を持ち、自分でも積極的に子供会活動や自治会活動に参加できるような仕組みを作る。					
目的 (何のために)	将来を担う子供たちは地域の中で様々な人たちの中で暮らしていることを学び、スクールガードや防災、防犯など小地域活動を支える、地域での助けあい活動に参加するなどボランティア精神も養いながら自然と地域に対する関心を植え付け、同時に子供会も積極的に参加できるように促す。また、年齢問わずより多くの方々集えるような会に支援する。					
対象 (誰・何を対象に)	子育て世代、シニア、児童等					
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた いのかなど)	活発に行っている子ども会を視察。モデル地区を指定し、地域での活動を基盤として、自治会の協力を得て、ボランティア、自主防災会など地域での活動、地域のイベント等に参加するための仕組みづくり協力体制について研究、支援する。					
平成28年度 の実施状況	子ども会活動を活発に行っている自治会についての調査を行い、活動の状況を取材した。八重洲ニュータウン自治会主催のもちつき大会に参加。ボランティアや自治会との協力体制など運営の状況についても調査した。					

進行 管理	成果 状況			成果状況に対する説明
		4月～ 3月	2	八重洲ニュータウンでは自治会の行事に子ども会の保護者も参加しており、今回のもちつき大会でも保護者がもちを調理し、子供の参加も多くあった。紙飛行機ボランティアが作った紙飛行機で自由に遊ぶコーナーがあり高齢者と子供の関係もうまく機能している印象があり地域のモデルとして今後も調査をする。
	課題			
	少子化の影響により子ども会の活動が低迷している。現在行っている活動のほかに社協との協力による活動につなげる方法がむずかしい。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	実際に行っている活動の規模の拡大、参加者を増やす努力など新たな展開ではなく、まずは既存の活動についての協力についてを考える。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	地域の活動状況を自治会、市の協力により情報を提供してもらい、事例を検討する。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		29年4 月～ 30年3 月	子ども会の活動についても自治会等の活動として助けあいのまちづくり推進事業助成金の説明を行い、資金的な支援により活動の活発化を目指す。	
年 月 ～ 年 月				
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
子ども会は今のくらいの数が活動しているのか。私たちのころは活発だったが今は少なくなってきたのではないかと。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

				シート作成年度	平成28年度
実施項目名	子育てネットワーク推進			担当係	地域支援係
				職名	係長
事業開始年度	平成26年度			担当者	氏名 小林一郎
根拠法令等					
プランにおける 該当項目	行動目標	5	子どもたちを地域で育もう		
	行動計画	①	親子交流の場の整備に努めます		
現状と課題	子育て支援センターなど子育て世代が集う場所はあるが、小地域で地域ぐるみの交流場所がない。また同世代のみの交流になり、地域活動への参加にはつながらない。昨年度までに4ヶ所の子育て支援センターでブレインジム講習会を実施。ブレインジム指導員は、自治会等認知症予防の高齢者向けに多く派遣しているため、子供向けやメンタル面での保護者向けのブレインジムについてボランティアさんの周知がなされていない。				
目的 (何のために)	小地域の中で子育て世代と地域社会のつながりをつくる。子育て世代のみならず地域住民が参加しやすい場を設け交流することによって地域でともに支える環境づくりする。				
対象 (誰・何を対象に)	子育て世代、シニア、児童				
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	地域子育て支援センターでのブレインジム開催。定期的開催により保護者への興味関心を高めボランティアにつなげる。今年度もブレインジム講習会を開催し興味を持った方を対象に今年度中に親子向けのブレインジムを目的としたサロンを1ヶ所を目標に立上げを目指す。				
平成28年度 の実施状況	11月に福祉交流センターで親子ブレインジム(脳を活性化する運動)の体験講座を開催。ブレインジムはお子さんの脳の活性化につながるため体験講座を機に定期的に利用するサークル活動につなげるよう開催。最終的には保護者自身がブレインジムに関するサロンを行えるよう社協でも協力する。				

進行 管理	成果 状況			成果状況に対する説明
		4月～ 3月	2	親子ブレインジムに参加した保護者は2名お子さん3名と少なかったが、参加した保護者がブレインジムに興味を持ったとのことで現在行っている月1回のブレインジムサークルを紹介した。今後も4ヶ所の地域子育て支援センターでブレインジムを開催し、興味関心のある方をブレインジムサークルでの活動につなげる。子育て中の保護者やお子さんに有効な活動として定着を目指す。
	課題			
	現在ブレインジムボランティアは、自治会等認知症予防の高齢者向けに多く派遣しているため、子供向けやメンタル面での保護者向けのブレインジムについて既存の指導員が興味をもって派遣できるよう周知がなされていない。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	子供向けやメンタル面での保護者向けのブレインジムも指導が行えるように学習会を開催する。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	地域子育て支援センター担当者にもブレインジムについてある程度の知識を持ってもらい指導補助等協力してもらう。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		29年4月～ 30年3月	地域子育て支援センター4ヶ所でのブレインジム開催。子供向け保護者のメンタル面でのサポートができるようなブレインジムを定期的に行えるよう、現在月1回行っているブレインジムのサークル活動に子供向けのブレインジムの勉強もしていただけるよう依頼する。最終的には参加した保護者によるブレインジムの勉強会を兼ねた子育てサロン開催を目指す。	
年 月 ～ 年 月				
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
平成29年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成28年度
実施項目名	子育て支援の輪づくり	担当係		地域支援係
		担当者	職名	主幹
事業開始年度			氏名	廣瀬嘉子
根拠法令等				
プランにおける 該当項目	行動目標	5	子どもたちを地域で育もう	
	行動計画	①	家族ふれあいの機会をつくります。	
現状と課題	共働きや専業主婦ひとり親といった家庭の事情にかかわらず、子育てに奮闘しているすべての家庭へ、地域ぐるみの子育て支援が必要とされています。身近なところに支援の輪が広がるよう体制づくりに努めます。			
目的 (何のために)	子育て中の親子が交流・世代間を超えた居場所づくり			
対象 (誰・何を対象に)	ファミリーサポートセンター利用会員・協力会員、または市内の親子			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させたい のかなど)	昨年に続き利用会員・協力会員が興味を持つ交流会の内容を十分に検討する。例えば、年齢問わず行うことが出来る「スローエアロビック」を計画中。スローエアロビックは音楽に合わせて楽しみながら行う有酸素運動ということで今話題である。			
平成28年度 の実施状況	利用会員・協力会員の交流会としてスローエアロビックを5月24日（火）に開催。講師には茨城県エアロビック連盟の宮本真理子先生をお招きし、参加者は8名でした。お子さんの参加もあり、積極的に楽しんでいた様子でした。また会員同士の交流ができたことと思います。			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明
		4月～ 3月	3	参加者は利用会員とお子さん、そして協力会員と両方会員の参加があり、世代間交流としては良かったと思います。ただお子さんの参加が少なかったことが残念に思います。
	課題			
	開催日を土曜日や日曜日などの休日にするなど、お子さんの参加しやすい日時や会場を設定する。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	参加者が十分に集められる様に交流会の内容を十分に検討し、興味があるものをリサーチし計画していきます。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	開催の周知については、親子が集まる「子育て支援センター」の協力を頂き案内を考えています。			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
29年5月 ～ 30年8月		協力会員、そして親子で参加できる親子料理教室の計画を行う。 会場については、キッズプレイルームのあるウェルネスプラザで開催予定。		
29年9月 ～ 30年12月		親子料理教室の開催。定員は親子で20名で募集する。		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
平成29年度も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。				